

IR イン트로ダクション

- 事業概要とビジネスモデルについて -

2022年9月期

2022年11月15日

GMO PAYMENT GATEWAY

1 事業概要

p.3

2 注力分野

p.17

3 参考資料

p.37

本資料における表記の定義

GMO-PG : GMOペイメントゲートウェイ、GMO-EP : GMOイプシロン、
GMO-MR : GMO医療予約技術研究所、GMO-PS : GMOペイメントサービス、
GMO-FG : GMOフィナンシャルゲート、GMO-CAS : GMOカードシステム
PF : プラットフォーム

1.1 成長の軌跡

成長の持続性を重視した経営方針の成果



稼働店舗数 ※3,4	年間決済処理件数 ※3	年間決済処理金額 ※3
142,396店	48.6億件	11.3兆円

(※1) 2020年9月期にMACROKIOSK社が連結除外されたため、売上収益、営業利益、及びEBITDAは非継続事業を除いた継続事業の金額を表示

(※2) EBITDAについて、J-GAAPにおいては営業利益と減価償却費、のれん償却額の合計値、IFRSにおいては営業利益と減価償却費の合計値

(※3) 稼働店舗数はGMO-PG・EP、決済処理件数・金額はGMO-PG・EP・PS・FG、うちオンライン決済はGMO-PG・EP・PS

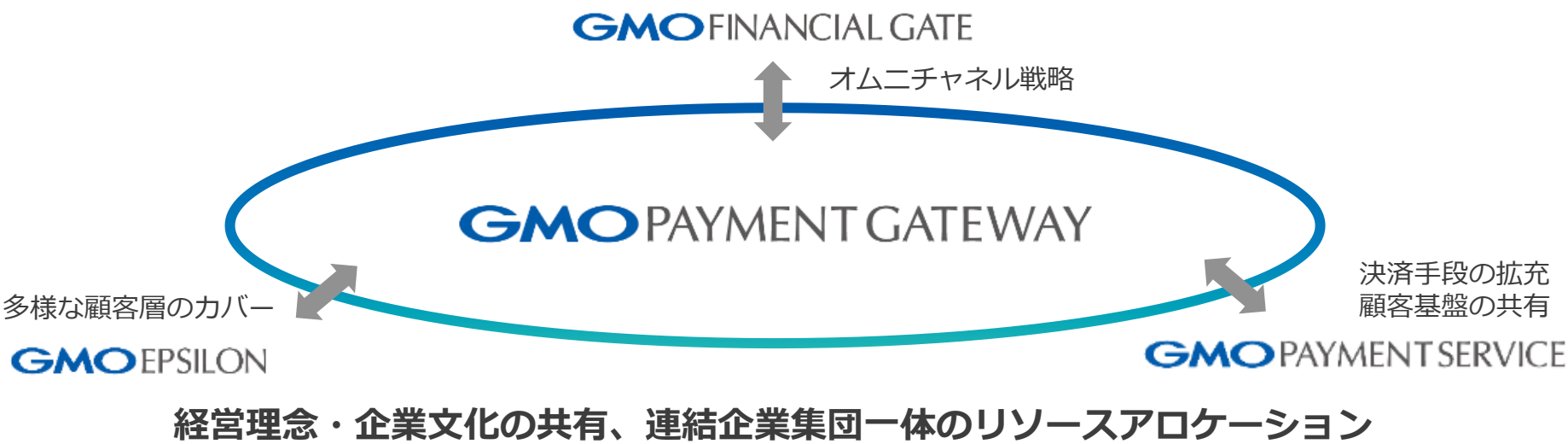
稼働店舗数は2022年9月末時点、年間決済処理件数および年間決済処理金額は2021年10月～2022年9月の数値

年間決済処理件数および年間決済処理金額はGMO-FGにおける決済を含む。

(※4) 22/2Qより稼働店舗数の計上基準を変更。稼働店舗数は特定案件及び大手デリバリー加盟店に係る店舗数を除く。当該案件を含む2022年9月末時点の稼働店舗数は455,958店 (前年同期比+44.7%)

1.2 連結経営

主要各社の事業環境に応じ緩急をつけた健全な業務運営によって、
連結企業集団全体の安定的な成長を実現

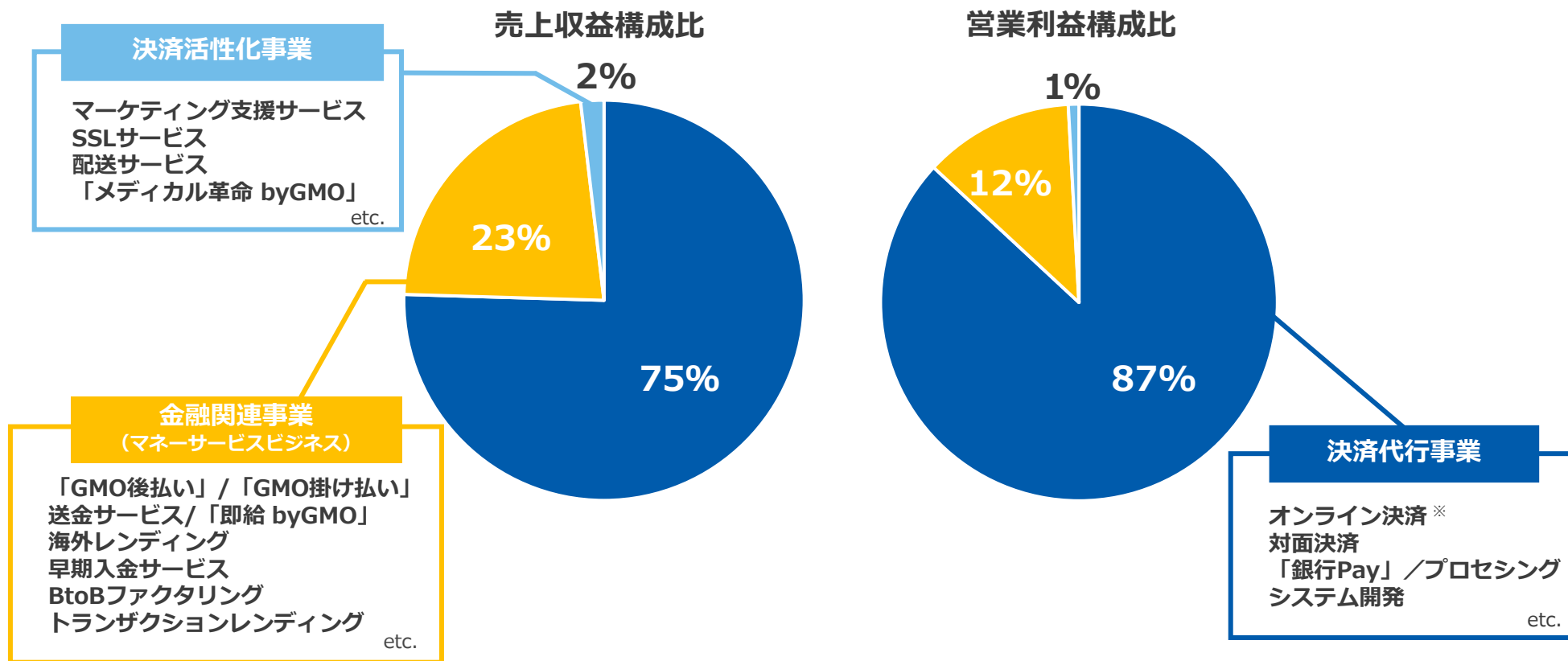


	GMO-PG	GMO-EP	GMO-FG	GMO-PS
主要事業	オンライン決済代行事業	オンライン決済代行事業	対面領域の決済代行事業	後払い決済事業
顧客	自治体、大手～中堅企業 (非物販、物販)	ロングテール (物販中心)	対面店舗、 無人機器事業者	物販・非物販事業者、 消費者

1.3 3つの事業セグメント

決済代行事業を軸に周辺事業を展開し、営業利益25%以上成長を継続

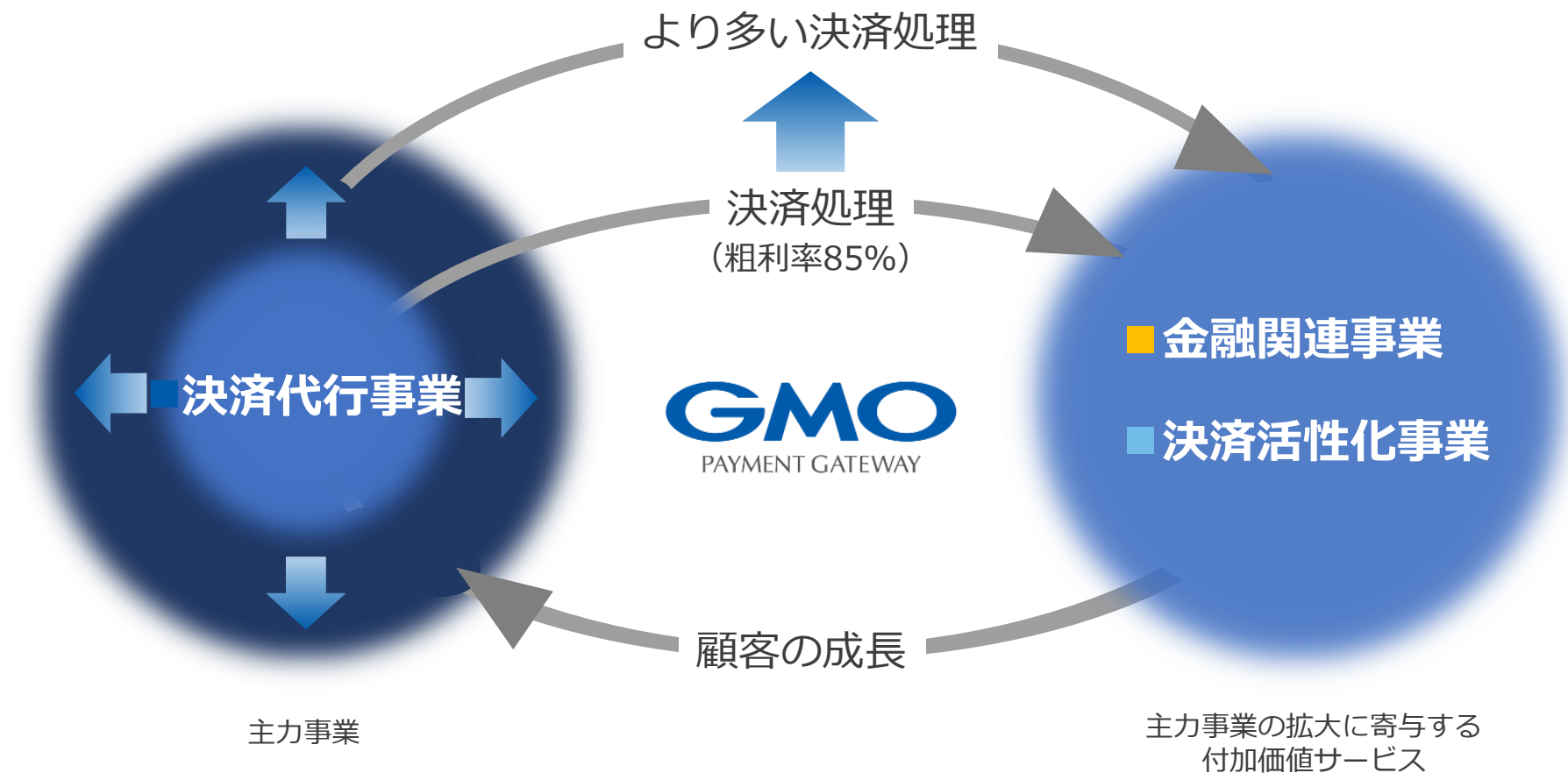
(2022年9月期実績)



※ オンライン決済：都度課金、継続課金、Z.com Payment（海外現地向け決済サービス）

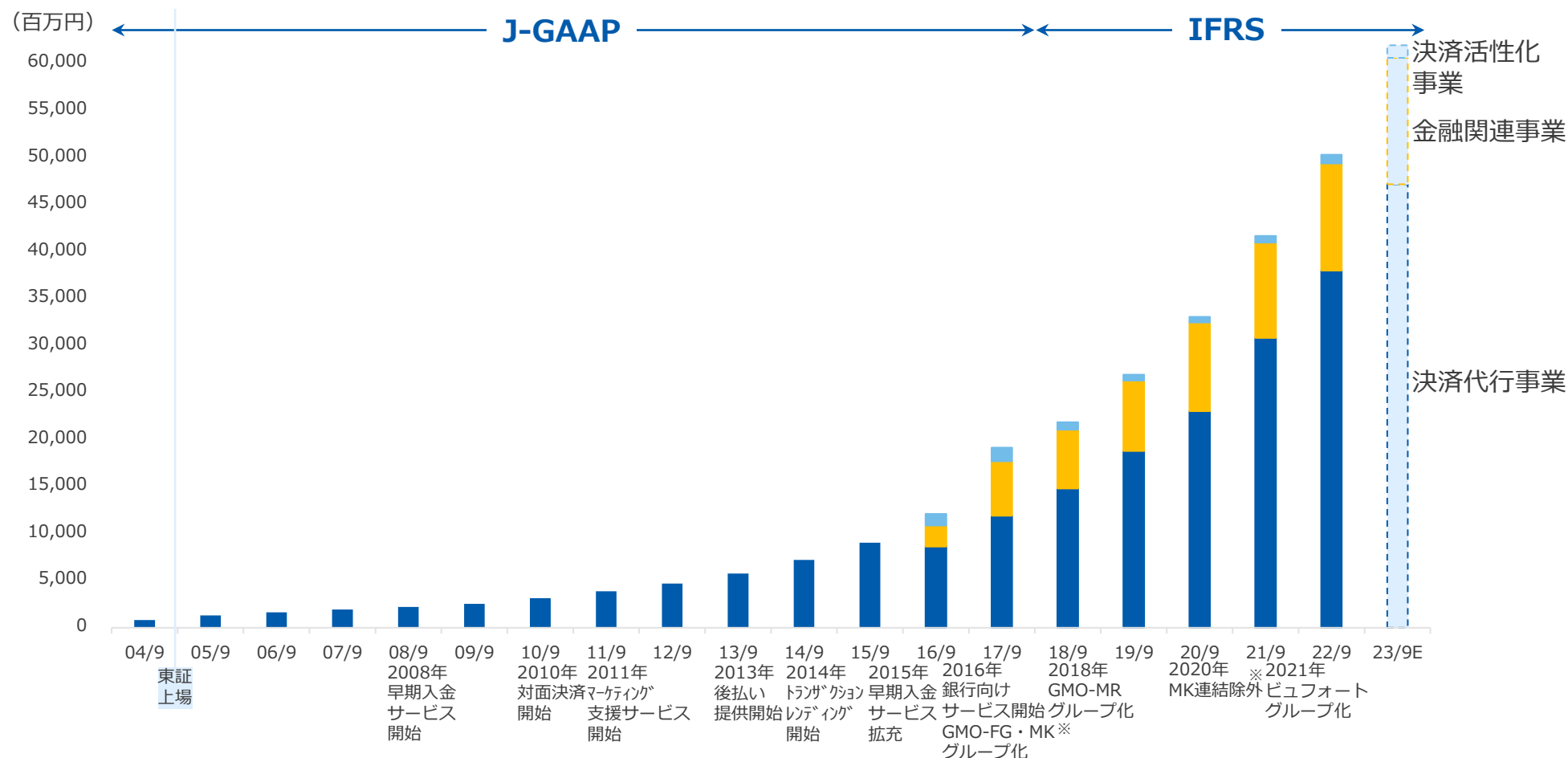
1.4 還流モデル

付加価値サービスが主力事業に還流し、拡大を続けるエコシステム



1.5 セグメント別売上推移

決済代行・金融関連・決済活性化の3セグメントで事業展開



※2015年9月期まで決済代行事業のみを行う単一事業会社、2016年9月期よりセグメント開示を開始。 MK：MACROKIOSK社
2020年9月期にMACROKIOSK社が連結除外されたため、非継続事業を除いた継続事業のセグメント別売上収益を表示

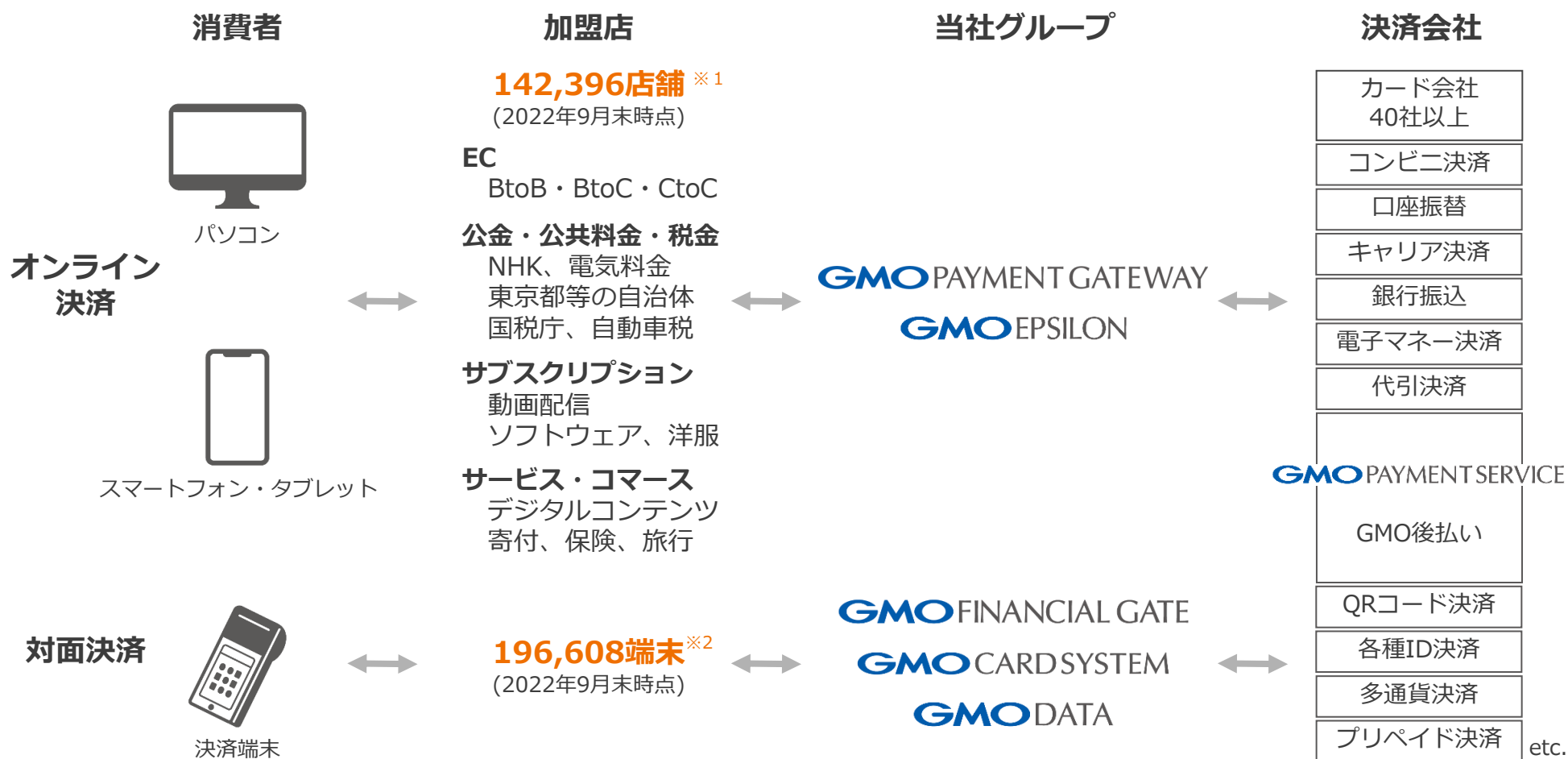
1.6 当社の提供価値

顧客ニーズに総合的に応える事業及びサービス

	課題・ニーズ	提供価値
決済代行事業	 加盟店 ・ 決済手段の導入に手間がかかる ・ 決済関連の事務作業が多く本業に集中できない ・ システムのトラブル発生が不安	・ 多様な決済手段の一括導入及び一元管理 ・ 決済や請求業務の負荷及びコストの軽減 ・ 高精度なシステム、充実したカスタマーサポート
	 消費者 ・ 利用できる決済手段が限られている ・ 決済セキュリティが心配	
金融関連事業	 加盟店 ・ 入金サイクルが遅い ・ 人員採用が進まない	・ 売上金を早期に入金して資金繰りを改善 ・ 就業者のニーズに応える給与前払いサービス
	 消費者 ・ 支払いタイミングが選べない	
決済活性化事業	 加盟店 ・ 売上を伸ばしたい	・ オンライン広告出稿による売上向上支援
	 消費者 ・ 医療機関での待ち時間が長い	

1.7 当社グループの立ち位置

加盟店と各決済会社との“契約”“決済情報”“お金のやりとり”を繋ぐ



※ 1 22/2Qより稼働店舗数の計上基準を変更。稼働店舗数は特定案件に及び大手デリバリー加盟店に係る店舗数を除く。当該案件を含む2022年9月末時点の稼働店舗数は455,958店（前年同期比+44.7 %）

※ 2 稼働端末数：2021年9月期より提携先にて販売した端末及び組込型端末も含んだ稼働端末数を開示（前年同期比+51.0%）

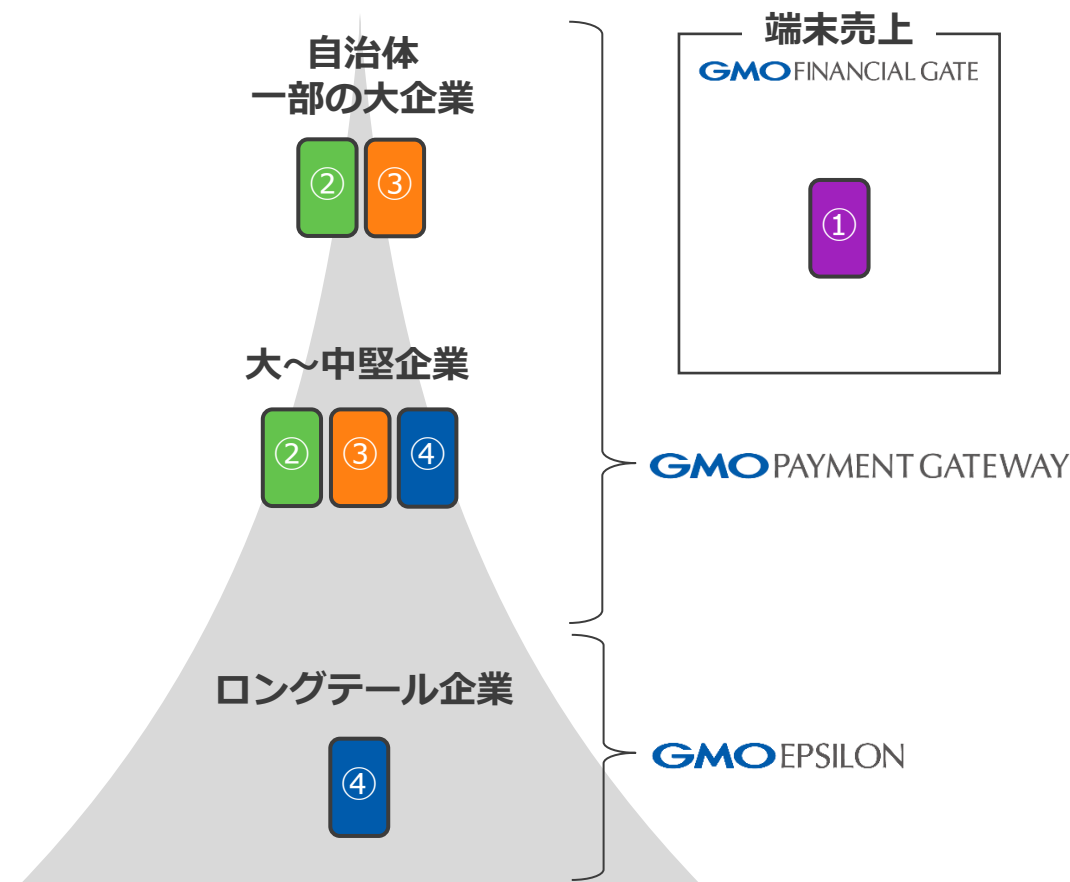
1.8 決済代行事業：クレジットカードの収益モデル

収益モデルを加盟店の規模・形態別に設定

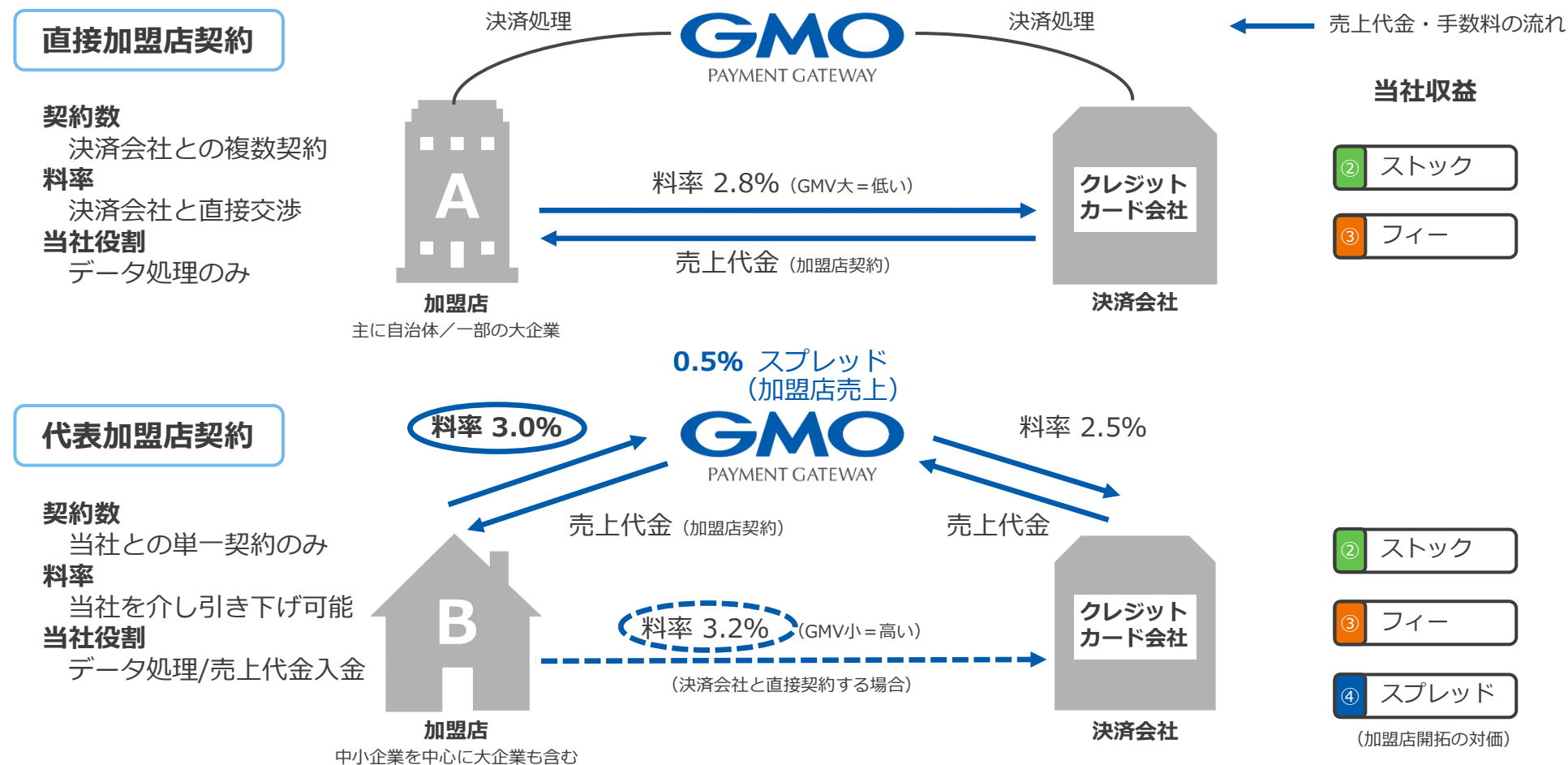
■ 4種類の収益（ビジネスモデル）



■ 加盟店の規模・形態に応じた収益モデル



1.9 決済代行事業：2種類の契約形態

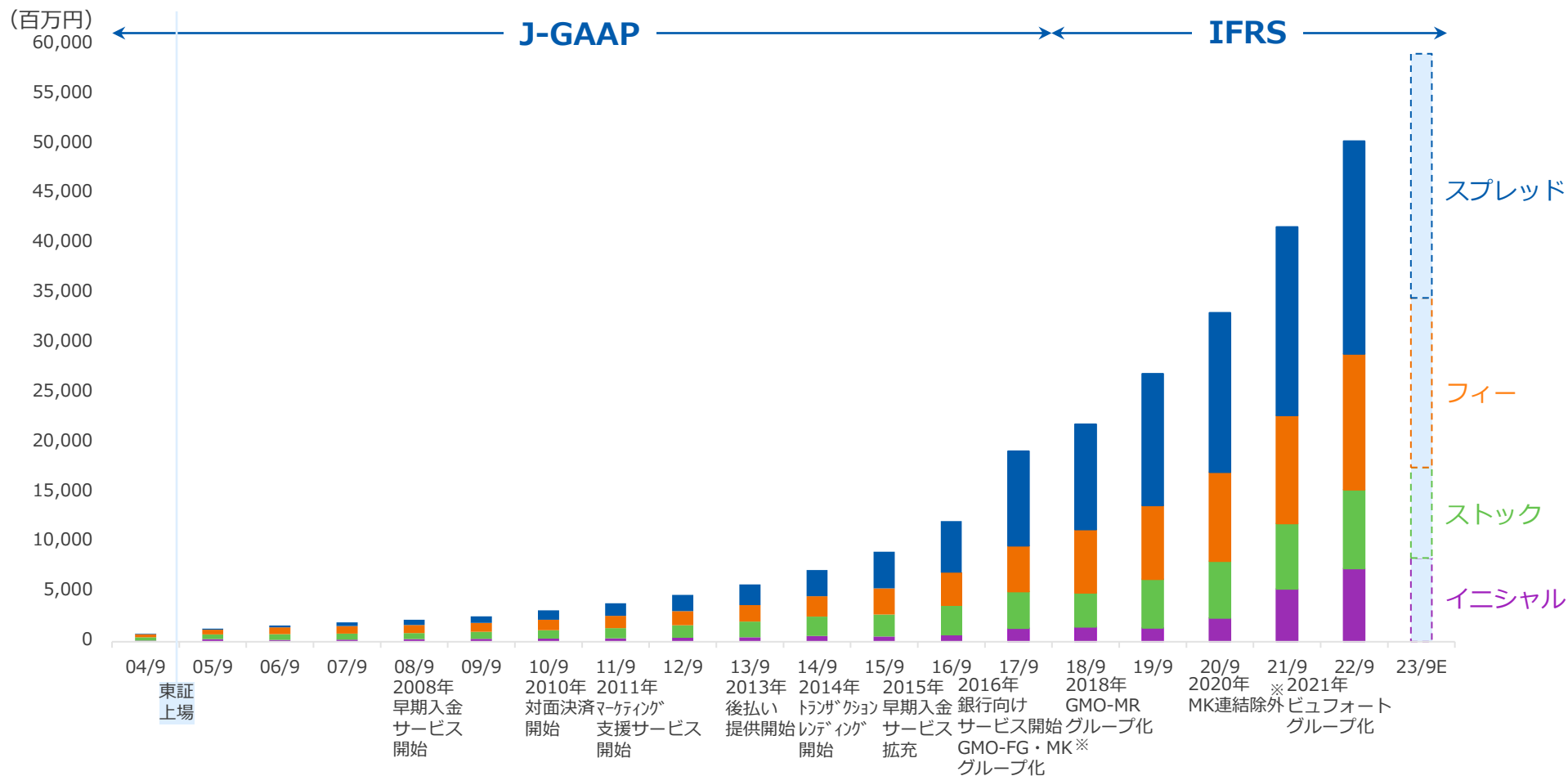


※料率数値はスキームを理解しやすくするための参考値

※当図は当社のクレジットカード契約の形態を示すもの。GMOイブシロンはスプレッド収益のみ。(p.10参照)

1.10 ビジネスモデル別売上推移

各種施策によりバランスのとれた売上成長を目指す



1.11 ビジネスモデル・セグメント・サービスの整理

4つのビジネスモデル、3つのセグメントの区分

イニシャル (イニシャル売上)	オンライン決済 ※
	対面決済
	SSLサービス
ストック (固定費売上)	オンライン決済
	対面決済
	「銀行Pay」 / プロセッシング / 「GCP」 ※
	システム開発
	マーケティング支援サービス 「メディカル革命 byGMO」
フィー (処理料売上)	オンライン決済
	対面決済
	「GMO後払い」 / 「GMO掛け払い」
	送金サービス / 「即給 byGMO」
	配送サービス 「メディカル革命 byGMO」
スプレッド (加盟店売上)	オンライン決済 / 「fincode byGMO」
	対面決済
	「GMO後払い」 / 「GMO掛け払い」
	海外レンディング
	早期入金サービス
	BtoBファクタリング トランザクションレンディング

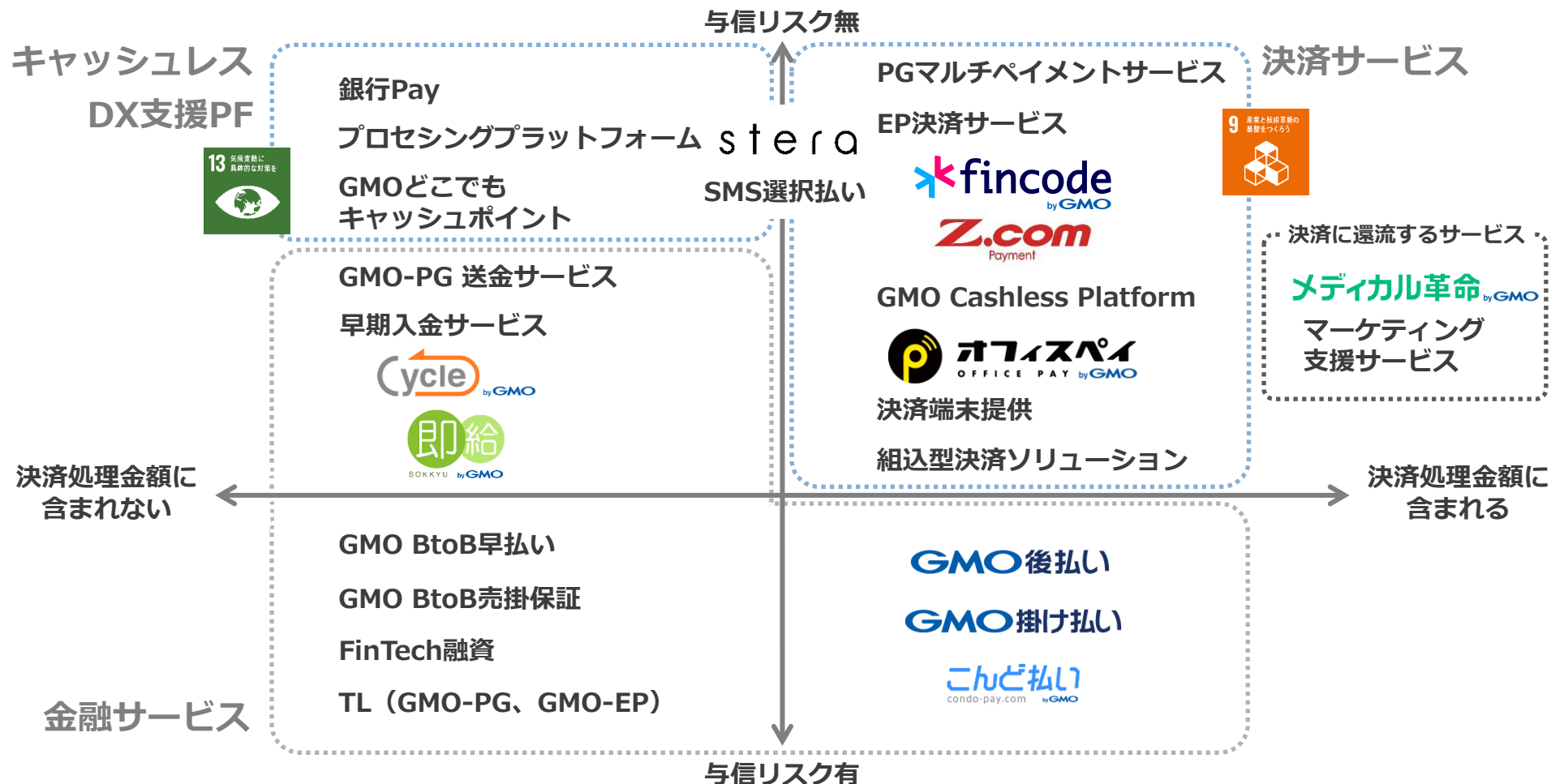
■セグメント

決済代行業業	オンライン決済 ※ / 「fincode byGMO」
	対面決済
	「銀行Pay」 / プロセッシング / 「GCP」 ※
	システム開発
金融関連事業 (マネーサービスビジネス)	「GMO後払い」 / 「GMO掛け払い」
	送金サービス / 「即給 byGMO」
	海外レンディング
	早期入金サービス
	BtoBファクタリング トランザクションレンディング
決済活性化事業	マーケティング支援サービス
	SSLサービス
	配送サービス
	「メディカル革命 byGMO」

※オンライン決済：都度課金、継続課金、Z.com Payment（海外現地向け決済サービス）、GCP：GMO Cashless Platform

1.12 プロダクトマップ

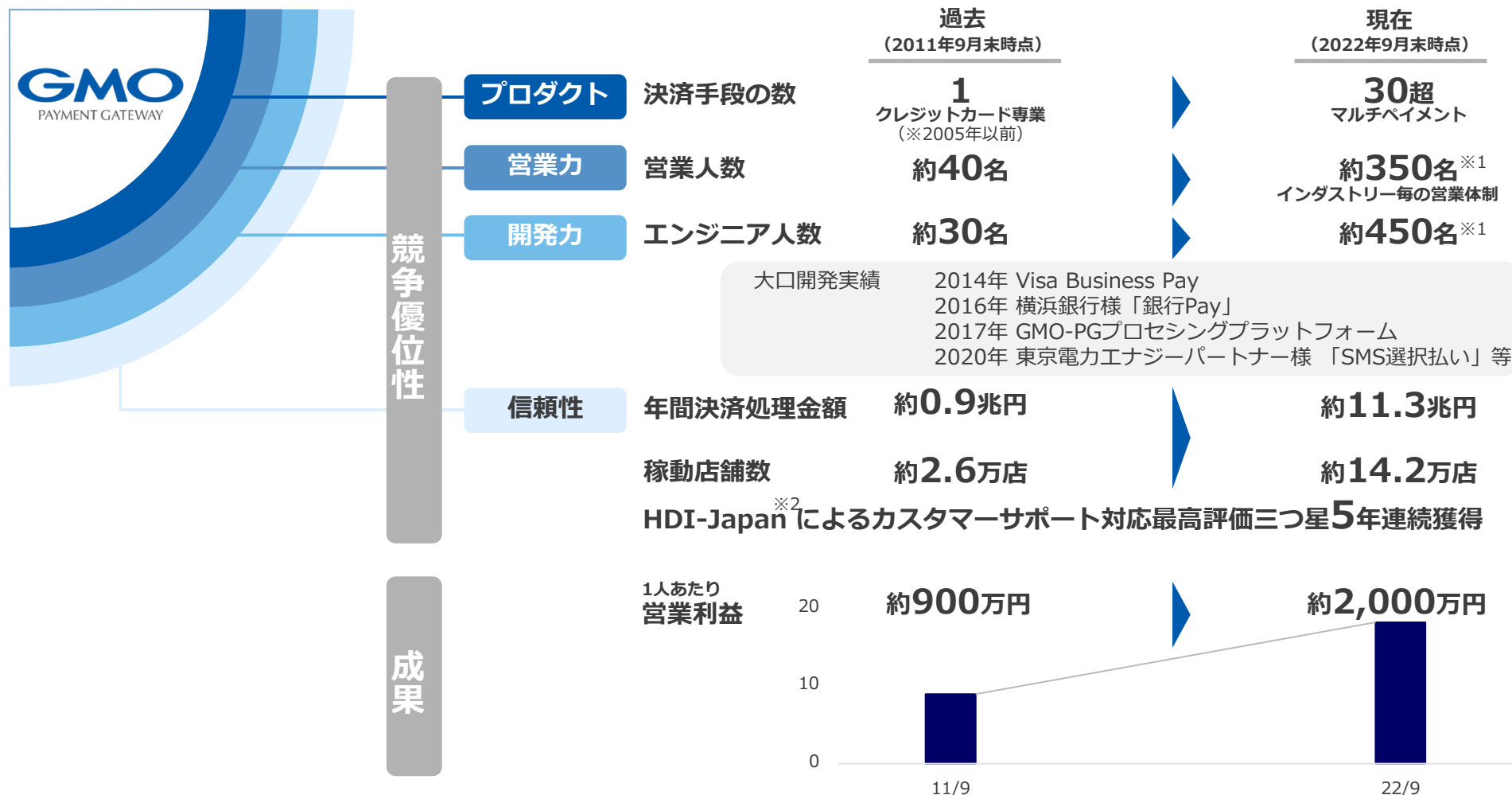
当社の「決済」定義；お金の流れをデジタル化するもの



※ TL：トランザクションレンディング

1.13 競争優位性とその成果

顧客に提供する価値を拡大し、顧客の成長に貢献



※1 営業人数及びエンジニア人数は、GMO-PG連結企業集団のパートナー及び外部協業者を含む

※2 HDI : ITサポートサービスにおける世界最大のメンバーシップ団体

1 事業概要

p.3

2 注力分野

p.17

3 参考資料

p.37

2.1 市場規模（TAM）の拡大と利益目標

巨大なマーケットで事業領域を拡大し、2025年営業利益250億円達成へ

■ 立脚市場におけるTAM・GMV^{※1}・営業利益目標と展開する重点施策

立脚市場	広義EC P.21-22	FinTech P.23-26	BaaS※2 P.27-29	対面・IoT P.30-31	グローバル P.32-33
	20202025	20202025	20202025	20202025	20202025
TAM (兆円)	20 (BtoC EC) 352 (BtoB EC)	1 (後払い) 2.5 (早期入金・TL) 220 (給与振込市場)	2 (金融機関のシステム投資額)	87 (対面キャッシュレス)	50 (海外レンディング)
GMV (兆円)	5	—	—	1	—
営業利益 (億円)	75	18	5	5	—※3
展開する重点施策	DXプラットフォーム GMP※4 「fincode byGMO」	BNPL 後払い/掛け払い 「即給 byGMO」	DXプラットフォーム	対面決済 (IoT) FinTech	グローバル FinTech

※1 TAM・GMV・営業利益数値は当社予測及び目標、小数点以下四捨五入の概算値。FinTechとグローバルの営業利益数値には重複有。対面の営業利益はGMO-FGグループ以外も含む

TAM : Total Addressable Market、BaaS : Bank as a Service、GMV : 決済処理金額

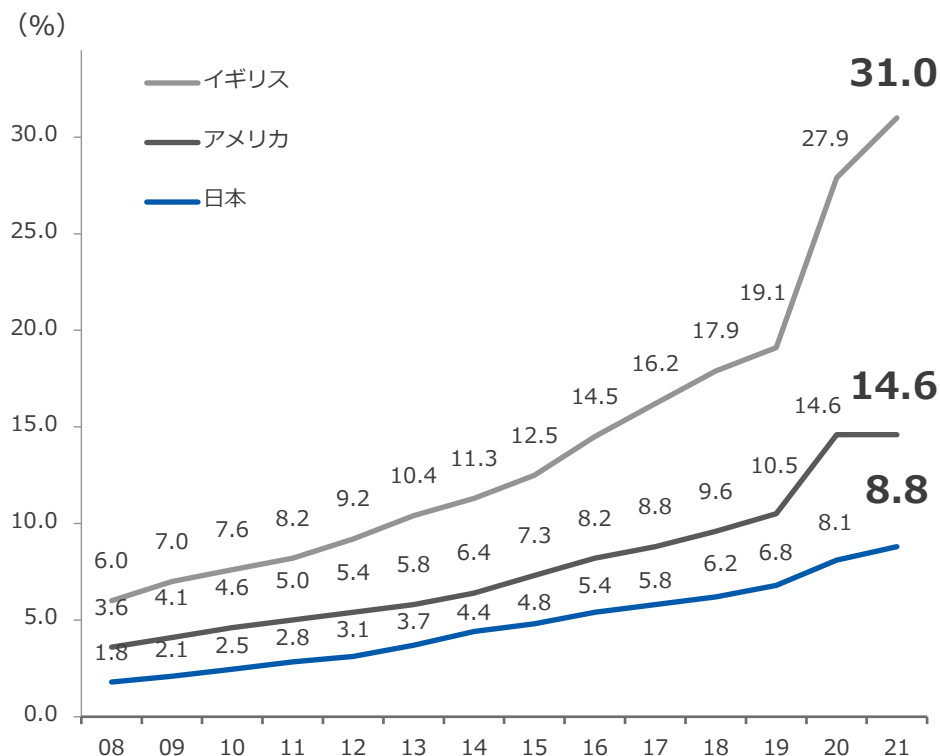
※2 BaaS : Embedded Finance (埋込み型金融) 含む

※3 グローバルの営業利益2020年実績はFinTechに含む ※4 GMP (グローバルメジャープレイヤー) : 世界中でITを活用するサービスを提供する大企業

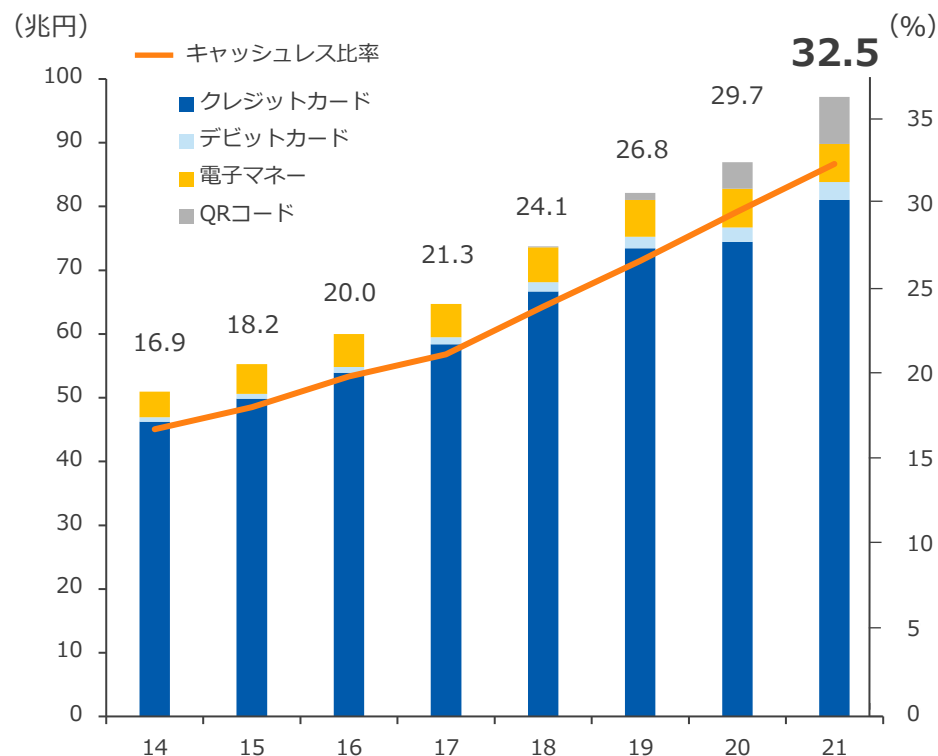
2.2.1 狭義EC : BtoC EC市場

欧米先進国と比べ低いEC化率・キャッシュレス比率

■ 先進国のEC化率



■ 国内のキャッシュレス比率（対民間最終消費支出比）



※経済産業省「令和3年度 内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（電子商取引に関する市場調査）」

米国勢調査局「The 2nd Quarter 2022 Retail E-Commerce Sales Report」

英国国家統計庁「Retail Sales Index internet sales, October 2022」

※内閣府「国民経済計算」

一般社団法人クレジット協会「日本のクレジット統計」

日本銀行「決済動向」

一般社団法人キャッシュレス推進協議会「コード決済利用動向調査」

2.2.2 決済代行業界の特徴

高い参入障壁と低位の解約率による安定した業界

高い参入障壁

法規制 (改正割販法等)

- ・ 継続的な改正による厳格化への対応
- ・ 加盟店管理、セキュリティ強化

決済会社 ネットワーク

- ・ 日本特有の決済慣行（多様な決済手段）の下、多数の決済会社との取引関係構築（P9参照）

事業規模

- ・ 取引単価が小さく、収益化には事業規模が必要
- ・ 加盟店開拓には、実績・営業力・開発力が必須

低位の解約率

業務特性

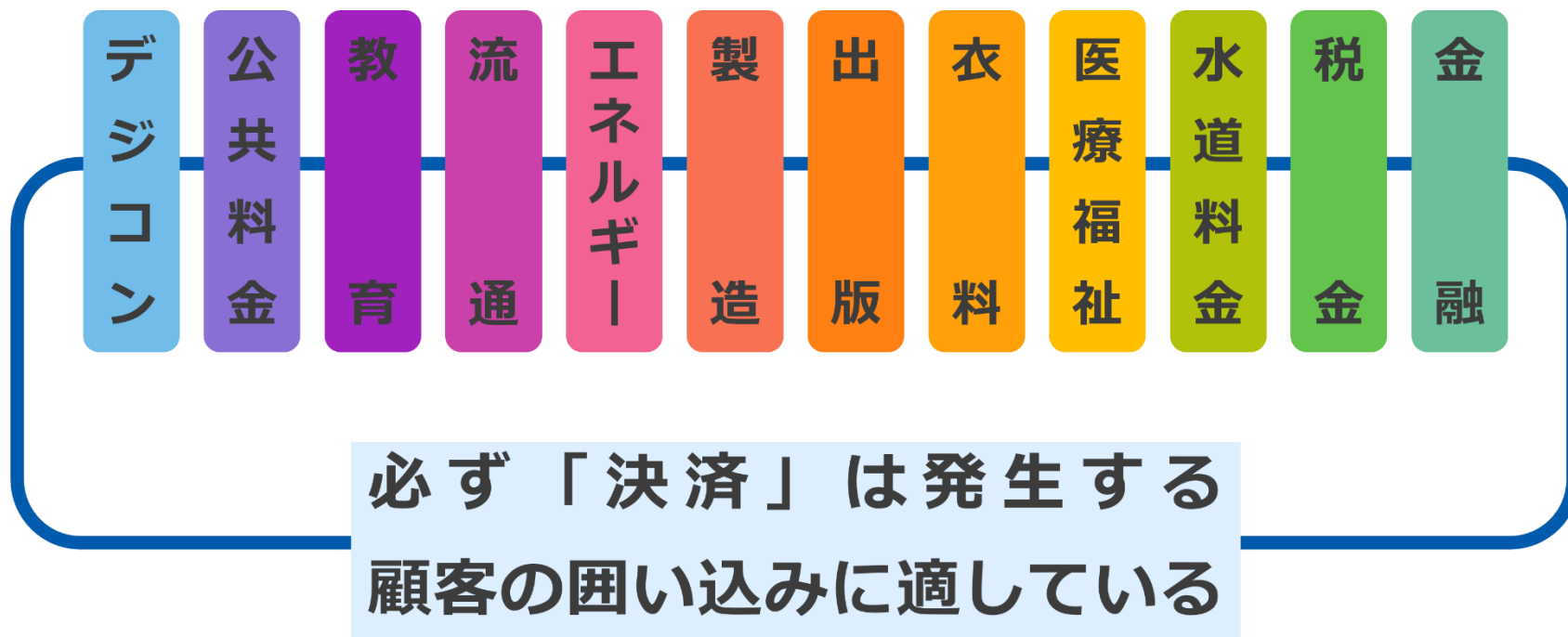
- ・ 決済は止めることが許されない基幹業務
- ・ クレジットカード情報など個人情報の共有

施策

- ・ 固有の業務フローやニーズを踏まえ、上流の開発から関与
- ・ 金融サービスなどニーズの高いサービスを併せて提供

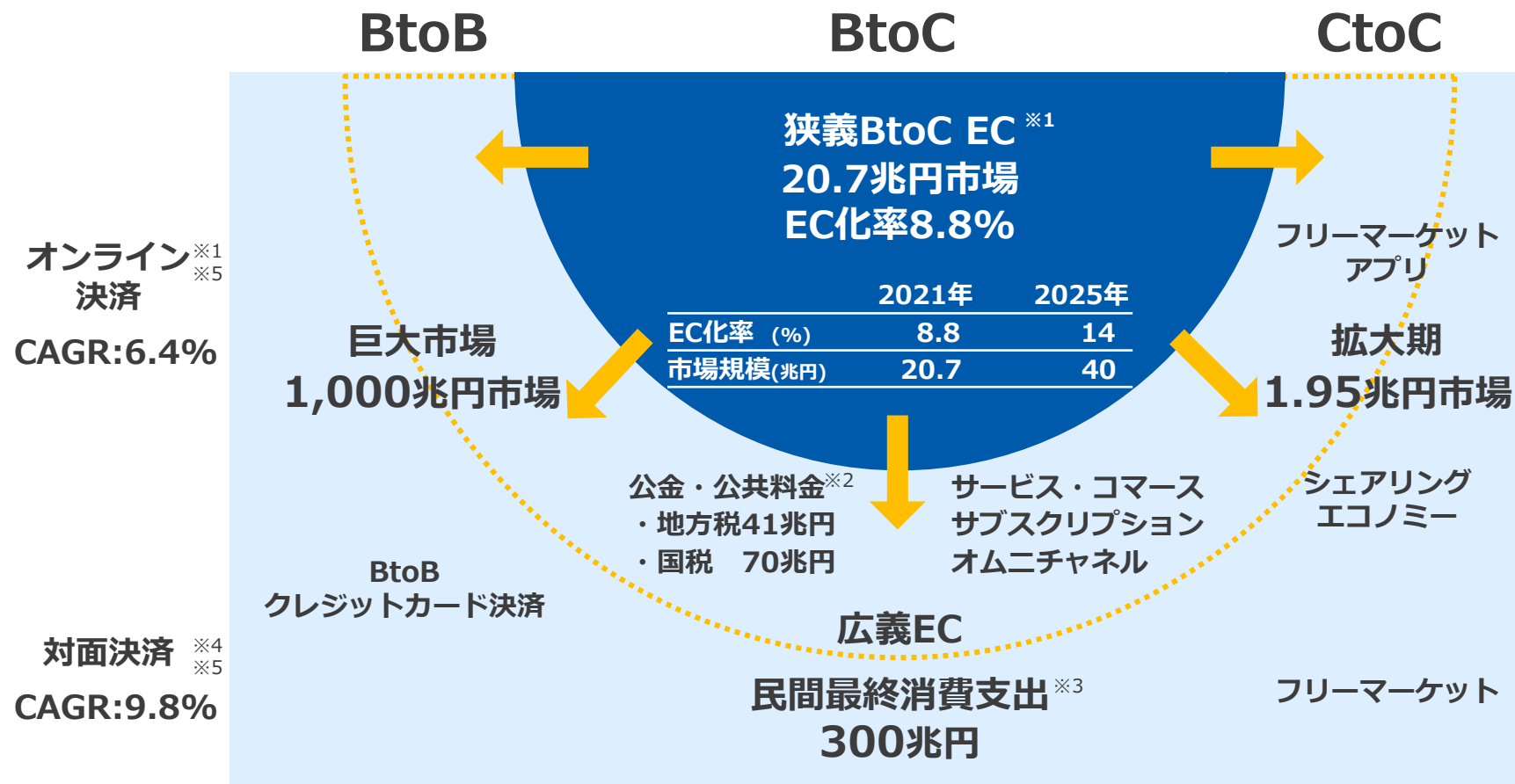
2.2.3 決済事業の特徴：クロスインダストリー

決済は購買活動で必要な行為であり、継続性の高いアプリケーション



2.3 広義EC：事業領域の拡大

日本における決済のキャッシュレス化が当社グループの成長加速に貢献



※1 経済産業省「令和3年度 内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（電子商取引に関する市場調査）」、2025年は当社予測。

※2 総務省「国税・地方税の税収内訳（令和4年度地方財政計画額）」

※3 THE WORLD BANK "Household final consumption expenditure (current USD)"

※4 一般社団法人キャッシュレス推進協議会「キャッシュレス・ロードマップ2019」、矢野経済研究所「2022年版 国内キャッシュレス決済市場の実態と将来予測」

※5 オンライン決済CAGR：2016年から2021年のオンライン決済市場規模の5年間CAGR、オフラインCAGR：2016年から2021年の対面キャッシュレス市場の5年間CAGR

2.3.2 広義EC：公金・公共料金

2006年の地方自治法改正期より参入し、当分野のカード決済を開拓

地方公共団体：地方税（自動車税、軽自動車税、固定資産税等）

水道料金、ガス料金、ふるさと納税

国税クレジットカードお支払サイト

国税スマホアプリ納付 等

NHK：放送受信料

2021年度末カード利用率18.1%（前年比+0.6%）※

東電EP：電気料金支払い等のデジタル化を支援し、
業務の大幅なペーパーレス化を実現
サービスの横展開も着実に進捗

管理費、塾の月謝、駐車場の支払い、給食費などにも
拡大が続く



※日本放送協会「令和3年度業務報告書」

2.4.1 FinTech：金融関連サービス

決済代行会社だからできる金融関連サービス

	サービス内容	関連アセット	ビジネスモデル
✓ 「GMO後払い」/ 「GMO掛け払い」	購入者の入金前に売上金を払込	未収入金	③ フィー ④ スプレッド
✓ 送金サービス/ 「即給 byGMO」※	効率的かつセキュアな 送金・返金処理を実現	前渡金	③ フィー
✓ 海外レンディング/ トランザクション レンディング	成長資金を融資	営業債権及びその他の債権 (短期貸付金)	④ スプレッド
✓ 早期入金サービス	入金日を早め キャッシュフロー改善	前渡金	④ スプレッド
✓ BtoBファクタリング	売掛金の早期資金化	未収入金	④ スプレッド

※「即給 byGMO」：デポジット型と立替型の2種類を提供。立替型のみ前渡金が発生

2.4.2 FinTech：日本の後払い市場

成長する日本特有の後払い決済ニーズを捉え、更なる事業拡大を目指す

後払いのニーズ



消費者

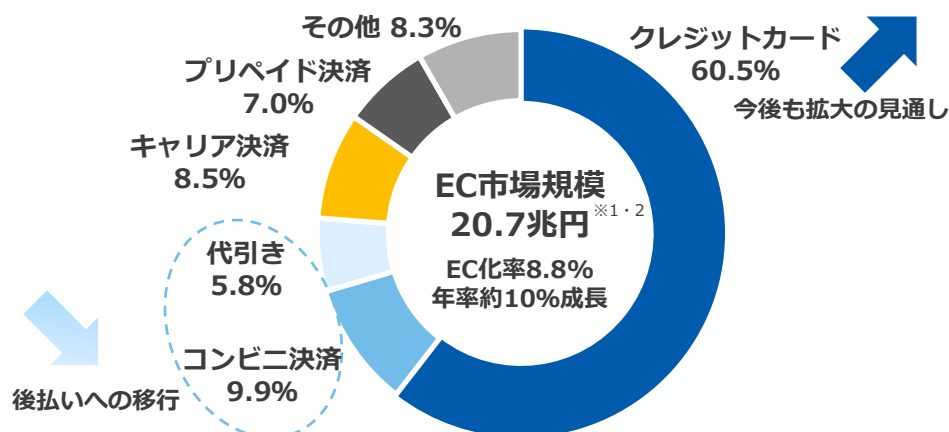
- ・先に購入品を受け取れる安心
- ・現金払い
- ・支出の調整・管理
- ・宅配業者と対面不要



加盟店

- ・多様な消費者層へのアクセス
- ・販売促進
- ・返品リスクの低減

決済手段別EC市場シェア（金額ベース）



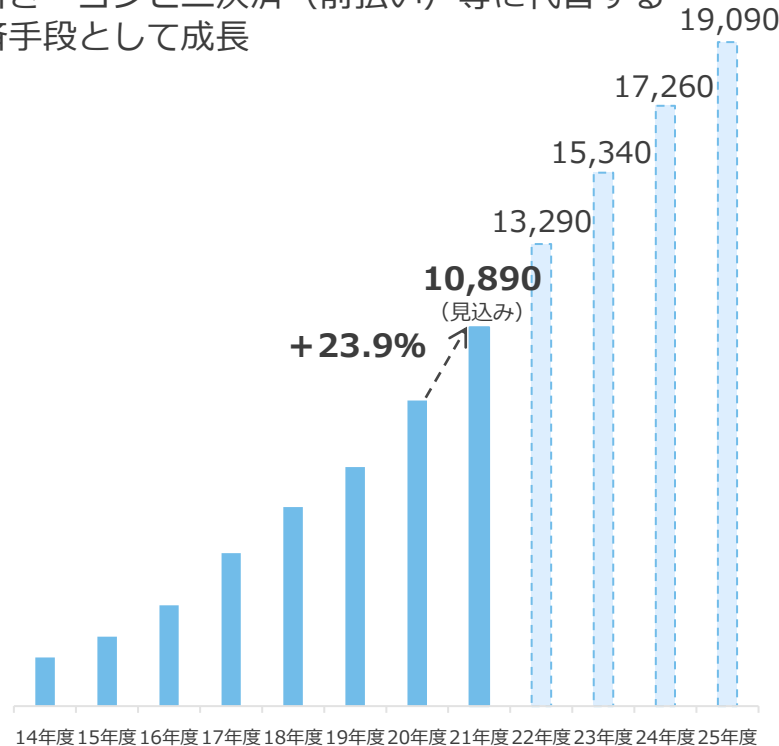
※1 経済産業省「令和3年度 内外一体の経済成長戦略構築にかかる国際経済調査事業（電子商取引に関する市場調査）」

※2 矢野経済研究所「オンライン決済サービスプロバイダーの現状と将来予測 2022年版」

※3 矢野経済研究所「オンライン決済サービスプロバイダーの現状と将来予測 2022年版」「国内キャッシュレス決済市場の実態と将来予測 2019年版」2021年度の数値は見込み、2022～2025年度の数値は予測

後払い市場の今後の見通し^{※3}

EC拡大に加え、クレジットカードとの併用、代引き・コンビニ決済（前払い）等に代替する決済手段として成長（単位：億円）



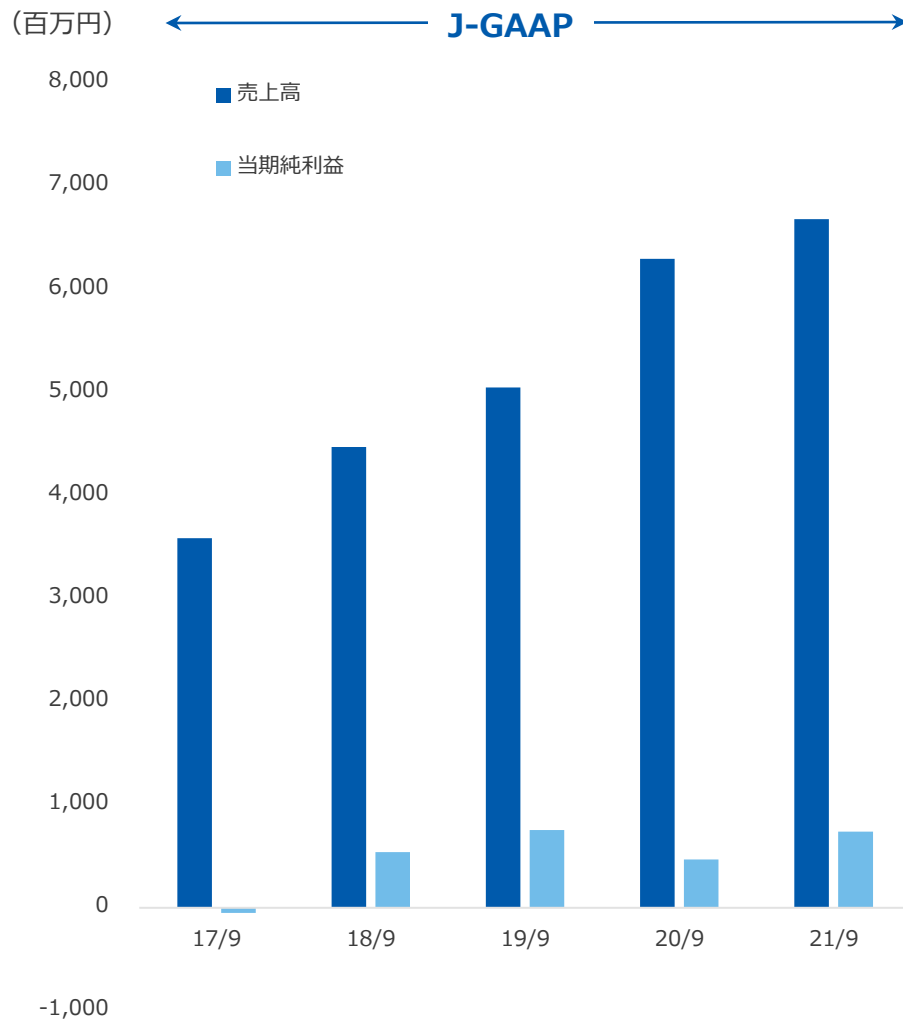
2.4.3 FinTech：当社の後払い事業（GMO-PS）

総合決済プレイヤーとして、上位シェア及び収益基盤を確立

当社後払い事業の特徴

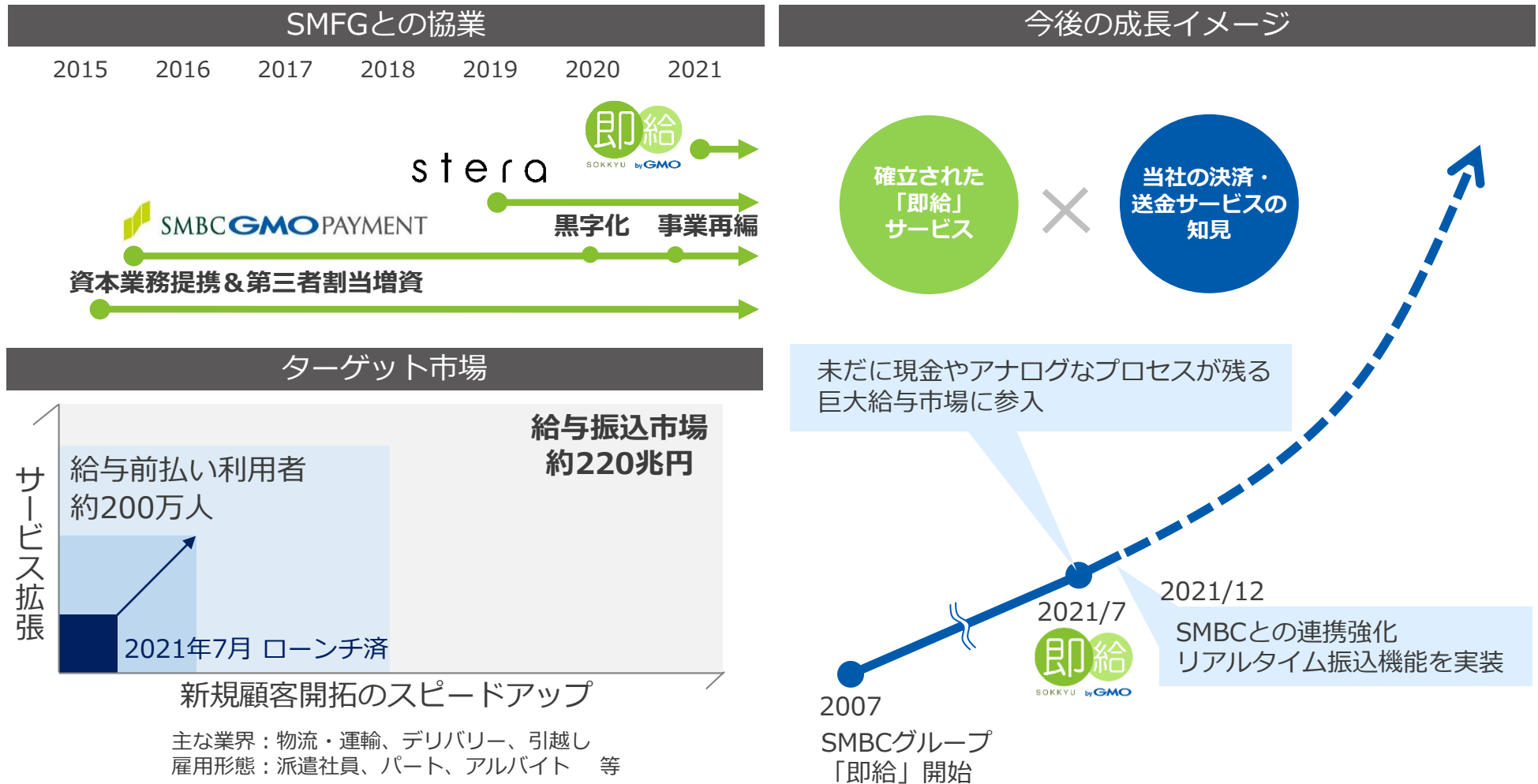
- ・ 大量与信データを利用した機械学習の適用
- ・ 独自の与信データ、回収ノウハウの蓄積に伴う未回収率の低減
- ・ 総合決済プレイヤーとして、ECに必要な全ての決済手段を提供
- ・ BtoB事業者と連携し、事業者向け後払い決済サービスを展開
- ・ SMCCと業務提携し、長期の分割払い、「stera」基盤を活用した対面取引を提供予定

- ・ 決済処理金額拡大とともに、安定的に利益計上
- ・ グループシナジーを創出し、国内上位の事業基盤を構築



2.4.4 FinTech : 即給 byGMO

220兆円給与市場におけるデジタル・シームレス化のデファクトとなる



※ SMFG：三井住友フィナンシャルグループ SMBCグループ：三井住友銀行グループ（含む、さくら情報システム）

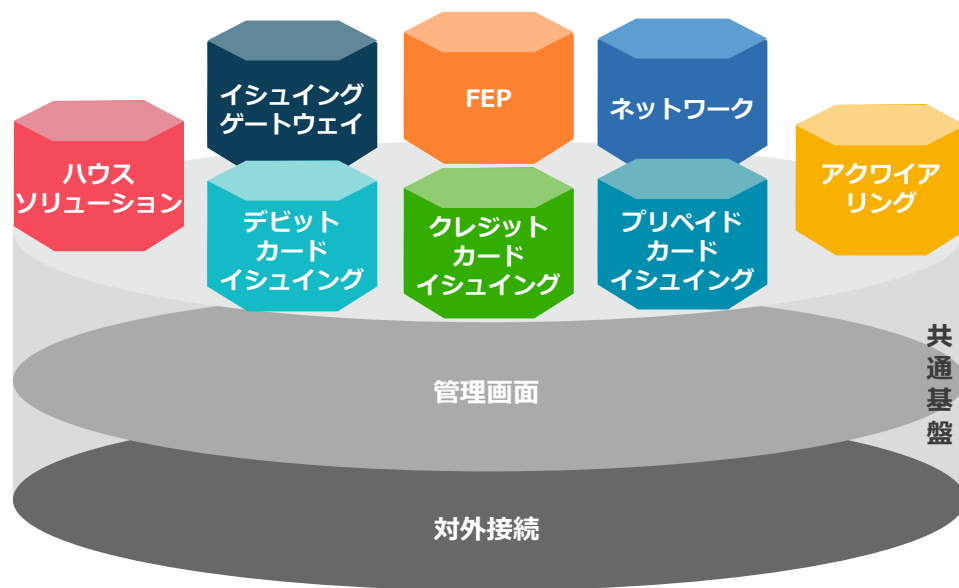
2.5.1 BaaS (Embedded Finance※)

決済ノウハウ・実績を活用し、決済ソリューションを一括サポート

【背景】

- ・ キャッシュレス・DXニーズの拡大
- ・ 事業会社による金融サービス提供

【GMO-PGプロセッシングプラットフォーム】



【エンドユーザー】

法人・個人



決済・キャッシュレス
ビジネス

【提供先】

金融機関・カード会社・事業会社



事業展開に必要な決済ソリューション・
共通基盤を自由に選択可能

GMO-PGプロセッシング
プラットフォーム

GMO PAYMENT GATEWAY

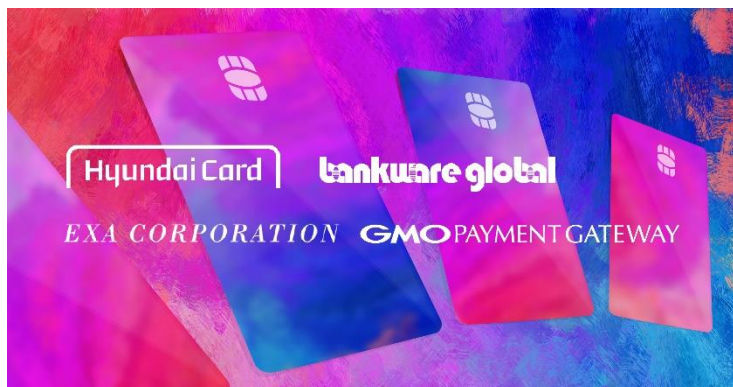
決済の知見、開発力等

※ Embedded Finance : 埋込み型金融

2.5.2 BaaS (Embedded Finance)

ニーズの高まるクレジットカード発行を、低コスト・短期間で実現

4社協働により、革新的なクレジットカード発行システム「H-ALIS」を2023年10月より提供開始※



【H-ALIS】

クレジットカード先進国である韓国で提携カード発行数No.1のHCCが提供するクレジット基幹プラットフォーム※

【GMO-PGの役割】

日本国内向けにローカライズした「H-ALIS」をASPサービスとして提供し、開発、FEPの提供及び日本国内での営業を担う※

【背景】

キャッシュレス推進の中で、多彩なクレジットカードをスピーディーに発行したい事業者ニーズの拡大

日本国内で、「H-ALIS」を「GMO-PG プロセッシングプラットフォーム」の「クレジットカードイシューイングサポート」として展開

【提供価値】

- 低コスト・短期間でのクレジットカード発行
- API基盤活用によるスムーズなシステム連携
- 迅速な機能改修

※ 4社：ヒョンデカード株式会社（HCC）、バンクウェアグローバル株式会社、株式会社エクサ、GMOペイメントゲートウェイ株式会社、FEP：カード会社が外部ネットワークの接続に際し必要となるシステム

2.5.3 BaaS・キャッシュレス

個社を獲得し、サービスを結合し、インフラ化を目指す

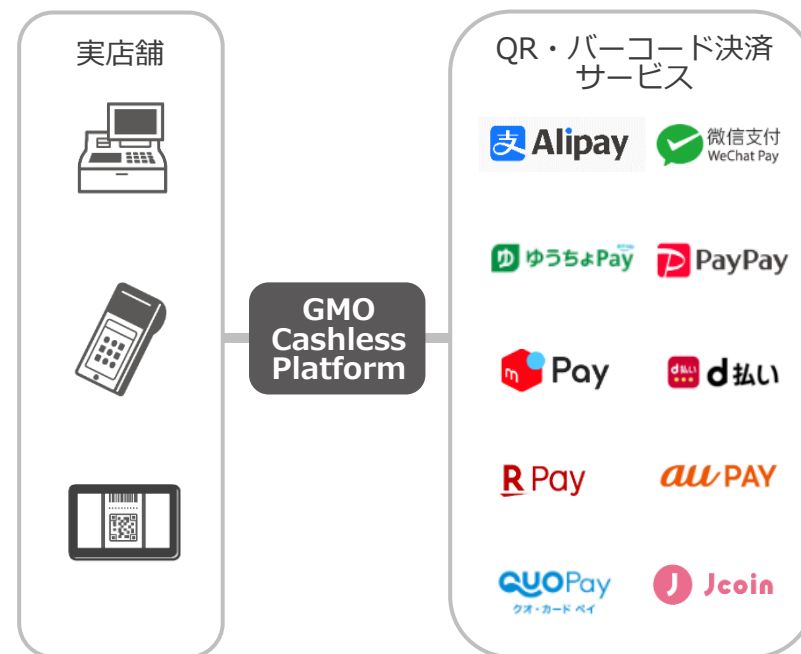
■ 銀行Pay

金融機関向けに即時に口座引き落とし等の支払いが可能なスマホアプリのシステムを提供



■ GMO Cashless Platform

実店舗向けキャッシュレスソリューション、各種QR・バーコード決済サービスを一括提供、今後対応するキャッシュレス手段を拡大予定



2.6.1 対面IoT：対面決済市場

キャッシュレス化&アライアンス戦略の展開により、更なる事業規模の拡大へ

■ 対面決済

店舗における決済の端末等をグループ会社であるGMOフィナンシャルゲートが提供

■ 対面決済市場の成長要因

- ・新しい生活様式等の外部環境の変更によるキャッシュレス需要

モバイル型決済端末



組込型EMV端末※



■ stera

新たな決済プラットフォームの提供によって
様々な決済にワンストップで対応



※ EMV：VisaとMasterCardが策定したICチップ搭載クレジットカードの統一規格

ターゲット：無人決済市場

物販機



券売機



コーヒーマシーン



精算機
(ゴルフ場/ホテル)



自動販売機
(飲料/食品)



EVチャージャー
駐車場精算機



セルフレジ



コインランドリー



ガチャ



2.6.2 GMOフィナンシャルゲート株式会社 会社概要

■会社名	GMOフィナンシャルゲート株式会社（東証グロース 4051）	
■設立年月	1999年9月	
■所在地	東京都渋谷区道玄坂1-14-6 ヒューマックス渋谷ビル（受付7階）	
■資本金	1,618百万円（2022年9月30日現在）	
■主要株主	GMOペイメントゲートウェイ株式会社 ほか	
■役員構成	代表取締役社長 杉山 憲太郎 取締役会長 高野 明 取締役 青山 明生 （営業本部長） 取締役 福田 知修 （システム本部長） 取締役 小出 達也 （GMOペイメントゲートウェイ株式会社 上席専務執行役員） 社外取締役 嶋村 那生 社外取締役 浅山 理恵 社外監査役 長澤 孝吉 社外監査役 小澤 哲 監査役 飯沼 孝壮 （税理士法人飯沼総合会計代表社員 公認会計士）	
■監査法人	EY新日本有限責任監査法人	
■主な連結子会社	GMOカードシステム株式会社 持分100% GMOデータ株式会社 持分51.0%（三井住友カード(株)49.0%）	 
■事業内容	クレジットカード、デビットカード、電子マネー等のキャッシュレス決済インフラ提供事業	

（2022年11月14日時点）

2.7.1 グローバル：海外戦略

北米投資のシナジー活用し、成長する東南アジア・インド市場に注力

■事業展開エリア



■戦略

決済代行業業

投融資先と提携し、現地決済サービスの提供

金融関連事業

北米・アジアの有力FinTech企業に
成長資金を投融資

- ・最新知見の獲得・還元・移転
- ・投融資先との関係強化

決済代行業業

金融関連事業

※1 GMOペイメントゲートウェイ及びGMO Global Payment Fundの投融資先
※2 売却済み/回収済みの案件

■投融資先 ※1

国	主な投資実績	主な融資実績
		investree VALIDUS※2 funding societies
	neweb	
	2c2p※2	
	MobiKwik Razorpay SATYA slice LENDINGKART klub	
	finAcel CODA	finAcel CROWDE
	APPOTA	
	taulia※2	DRIP/c flex.※2 reali※2

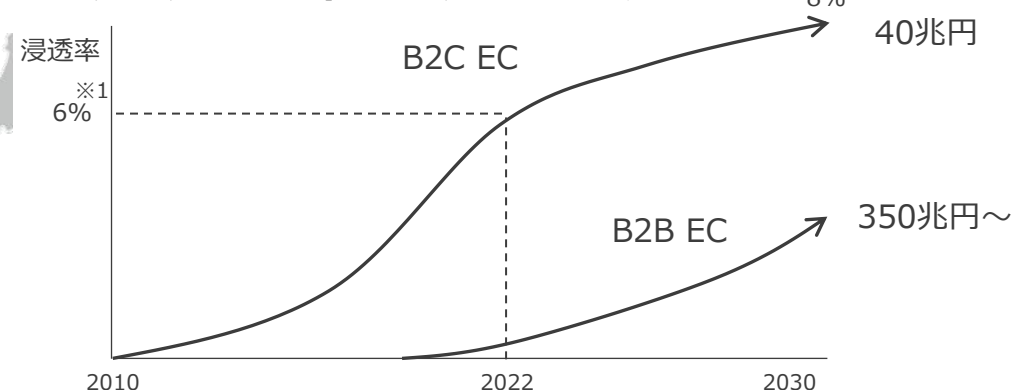
2.7.2 グローバル：海外投資戦略 20年のトレンド

インド・太平洋圏の重要機能のシフト：決済代行者からクレジット提供者へ

主要海外投融資先ポートフォリオ

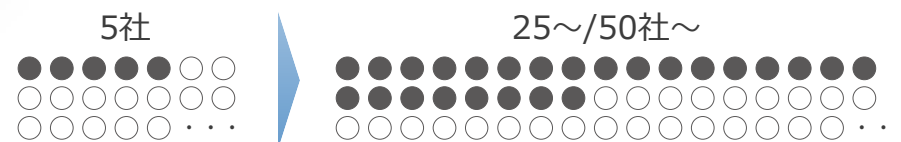


東南アジア・インドにおける市場の拡大



高成長FinTechの出現

当社が支援するFinTechユニコーン数の増加イメージ



※1 両地域の民間最終消費支出及びB2CEC市場化率をもとに算出 ※2 両地域のGDP予想及び日米のB2C/B2BEC市場化率等より当社推計

2.8.1 サステナビリティ

サステナビリティ実現に向けた取り組みを統合報告書に掲載

「第28期統合報告書」

URL : https://www.gmo-pg.com/corp/newsroom/pdf/211220_gmo_pg_ir_integrated_report.pdf

持続的な成長を支える基盤			
サステナビリティ経営			
DX・脱炭素化支援により、社会の進歩発展を牽引 クレジット×デジタル技術で社会的包摂を推進			
当社は、経営理念「社会の進歩発展に貢献する事で、国と市民の両者の豊かさを高める」のもと、オンライン化・キャッシュレス化・ペーパーレス化・DXなどを支援する決済を起点としたサービス提供、決済・金融機関での社会インクルージョンなどによりSDGsへの取り組みを行っています。また、多様性を認め合い、誰もが参加し支え合う社会の実現（インクルージョン）包摂）に貢献してまいります。			
注力領域	関連するESG	SDGsへの貢献	具体的な取り組み
デジタル・インクルージョン*	E 環境 S 社会	9 産業・インフラの革新 17 持続可能な開発のためのパートナーシップ	▶ EC化率向上、キャッシュレス化推進による便利・快適な社会の実現 ▶ ECショップ、デリバリーなど、デジタルを活用した多様な販売形態の加盟店を決済サービスでサポート ▶ 多数の事業パートナーとのオープンイノベーション
フィナンシャル・インクルージョン*	E 環境 S 社会	1 貧困の解消 8 持続可能な経済成長 9 産業・インフラの革新	▶ 金融包摂FinTech企業（マイクロファイナンス）へのインパクトファイナンスを推進 ▶ 紛争を呼ぶようなタイミングで受け取り「国債」GMO ▶ 幅広い決済を通じ、クレジットカード保有者もECへアクセスし、クレジットサービスによる、事業者への運転資金繰り
環境への貢献	E 環境	7 再生可能エネルギー 13 気候変動対策	▶ ペーパーレス化等、DX支援を通じた加盟店の脱炭素化支援 ▶ 実質再生可能エネルギーによる決済処理を開始
人材への貢献	S 社会	8 持続可能な経済成長	▶ 多様な多様な人的資源の活用（ダイバーシティ推進） ▶ 「企業は人なり」の考えのもと、ビジョン共有と、当社独自の人材育成制度により「人」の成長を支援 ▶ 企業は人を育てる場である、という考えのもと、その能力を最大限発揮できる場を提供（働き方改革）
健全な経営の実践	G ガバナンス	17 持続可能な開発のためのパートナーシップ	▶ 実質的なコーポレート・ガバナンス（企業統治）体制の構築 ▶ 最重要課題として、情報セキュリティの対策を強化 ▶ コンプライアンス（法令遵守）の強化

具体的な取り組み（一部抜粋）

EC化率向上、キャッシュレス化推進による 便利・快適な社会の実現

金融包摂FinTech企業（マイクロファイナンス）への インパクトファイナンスを推進

ペーパーレス化等、DX支援を通じた 加盟店の脱炭素化支援

実質再生可能エネルギーによる 決済処理を開始

「働きがいのある会社」調査で 8回連続ベストカンパニーに選出

1 事業概要

p.3

2 注力分野

p.17

3 参考資料

p.37

3.1 会社概要（2022年10月1日時点）

- 会社名
GMOペイメントゲートウェイ株式会社（東証プライム 3769）
- 設立年月 1995年3月
- 所在地
フクラスオフィス（本社）
東京都渋谷区道玄坂1-2-3 渋谷フクラス（総合受付15階）
ヒューマックスオフィス
東京都渋谷区道玄坂1-14-6 ヒューマックス渋谷ビル（受付7階）
- 資本金 133億23百万円
- 主要株主
GMOインターネット株式会社、株式会社三井住友銀行、 相浦一成 ほか
- 監査法人
EY新日本有限責任監査法人
- 主な連結子会社
GMOイブシロン株式会社、GMOペイメントサービス株式会社、
GMOフィナンシャルゲート株式会社、
GMO-Z.COM PAYMENT GATEWAY PTE. LTD.（シンガポール） など
- 主な持分法適用会社
SMBC GMO PAYMENT株式会社、
GMOデータ株式会社など

- 役員構成
取締役会長
代表取締役社長
取締役副社長
取締役副社長
取締役
取締役
取締役
取締役
取締役
取締役
社外取締役
社外取締役・監査等委員
社外取締役・監査等委員
社外取締役・監査等委員
社外取締役・監査等委員
上席専務執行役員
上席専務執行役員
専務執行役員
専務執行役員
常務執行役員
常務執行役員
常務執行役員
常務執行役員
常務執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員
執行役員

- | | |
|--------|------------------|
| 熊谷 正寿 | |
| 相浦 一成 | |
| 村松 竜 | (企創戦本部 担当) |
| 磯崎 寛 | (CS本部 担当) |
| 安田 昌史 | |
| 山下 浩史 | |
| 川崎 友紀 | |
| 新井 輝洋 | |
| 稲垣 法子 | |
| 島原 隆 | |
| 佐藤 明夫 | |
| 吉田 和隆 | |
| 岡本 和彦 | |
| 外園 有美 | |
| 甲斐 文朗 | |
| 杉山 真一 | (システム本部 担当) |
| 小出 達也 | (IVP本部 担当) |
| 久田 雄一 | (IVP本部 担当) |
| 三谷 隆 | (システム本部 担当) |
| 村上 知行 | (SGP 代表取締役会長) |
| 吉岡 優 | (IVP本部 担当) |
| 吉井 猛 | (IVP本部 担当) |
| 向井 克成 | (GMO-PS 代表取締役社長) |
| 田口 一成 | (GMO-EP 代表取締役社長) |
| 稲山 享伸 | (CS本部 担当) |
| 伊藤 慎悟 | (CS本部 担当) |
| 井ノ口 美徳 | (CS本部 担当) |
| 戸澤 宏文 | (企創戦本部 担当) |
| 畑田 泰紀 | (IVP本部 担当) |
| 武田 真理子 | (CS本部 担当) |
| 犬童 淳平 | (CS本部 担当) |
| 増田 克伊 | (GMO-PS 常務取締役) |
| 吉田 剛土 | (システム本部 担当) |
| 中山 悠介 | (企創戦本部 担当) |
| 西岡 修 | (IVP本部 担当) |

※企創戦本部：企業価値創造戦略統括本部、CS本部：コーポレートサポート本部、
IVP本部：イノベーション・パートナーズ本部、SGP：SMBC GMO PAYMENT株式会社

3.2 主な連結子会社及び持分法適用会社（IFRS基準）

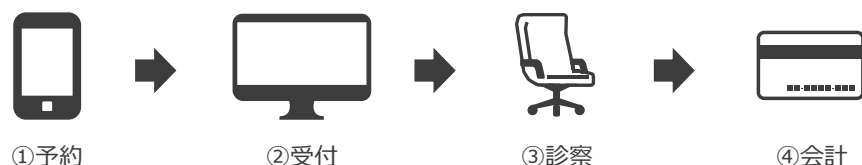


3.3 GMO医療予約技術研究所

病院・クリニックの業務効率化を実現する予約管理システムを提供

■「メディカル革命 byGMO」

Web予約機能に加えて、受付機能、電子カルテ連携機能、キャッシュレス決済機能などをシームレスに提供 ※1



■「おまとめ診察券 byGMO」

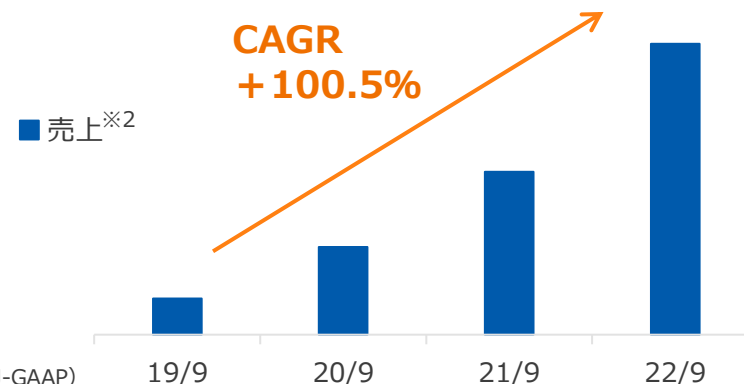
複数病院・クリニックの診察券を、1つのアプリに集約
受付業務の効率化、キャンセル率の改善に貢献

その他、様々な診療科に応じたサービスを展開

- ・「メディカル革命 byGMO FOR動物病院」
- ・「Dentry byGMO」

※1再来受付機、電子カルテ連携、キャッシュレス決済はオプション機能として提供 ※2 売上は日本基準 (J-GAAP)

会社名	GMO医療予約技術研究所株式会社 (GMO Medical Reservations Technology CO., Ltd.)
設立年月	2016年4月11日
親会社	GMOイプシロン株式会社 (持分：100%) (2018年8月 グループジョイン)
所在地	東京本社：東京都渋谷区道玄坂1丁目14番6号 ヒューマックス渋谷ビル7F 浜松支社：静岡県浜松市中区大工町125 シャンソンビル浜松6F



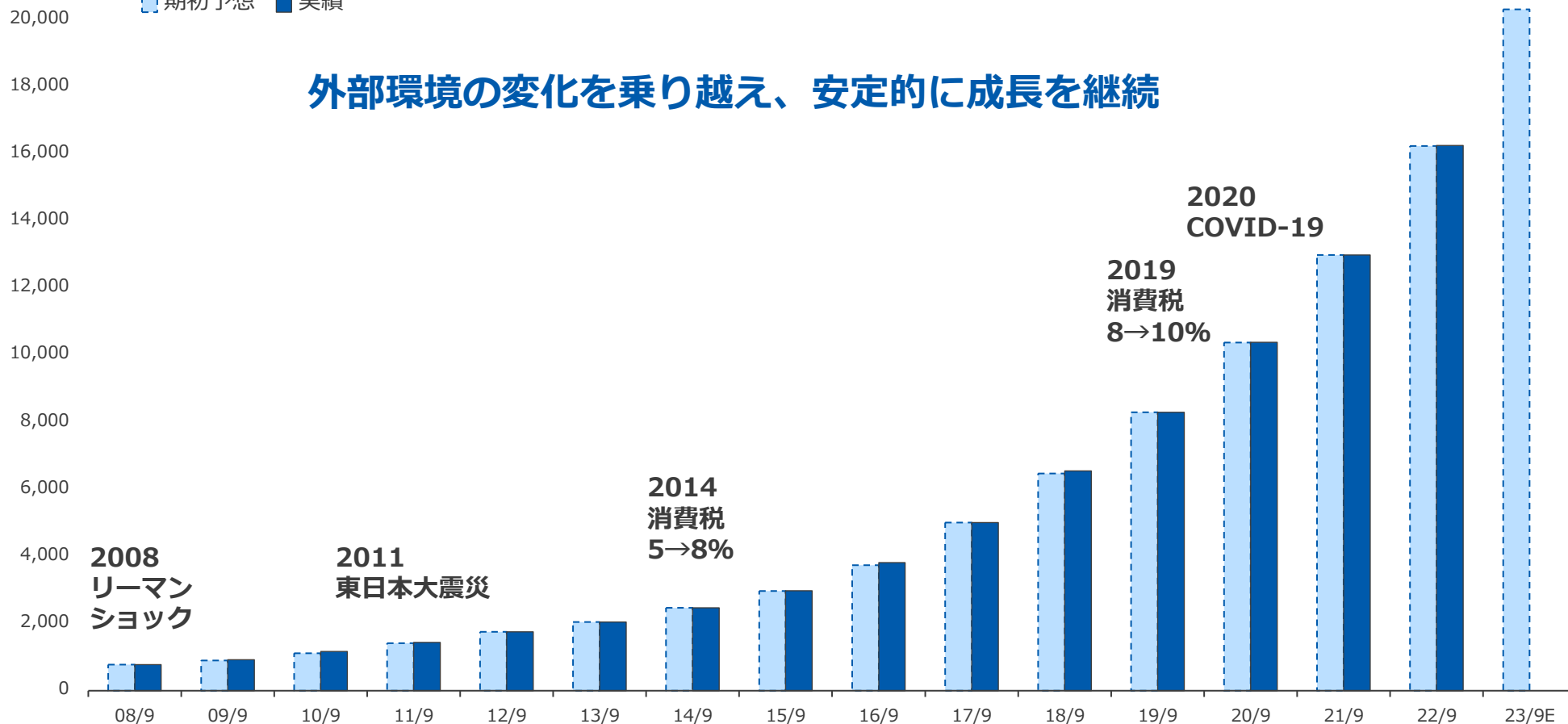
3.4 継続的な業績目標の達成

予見可能性の高い収益構造、規律ある業務運営により業績目標を達成

営業利益推移※

(百万円)

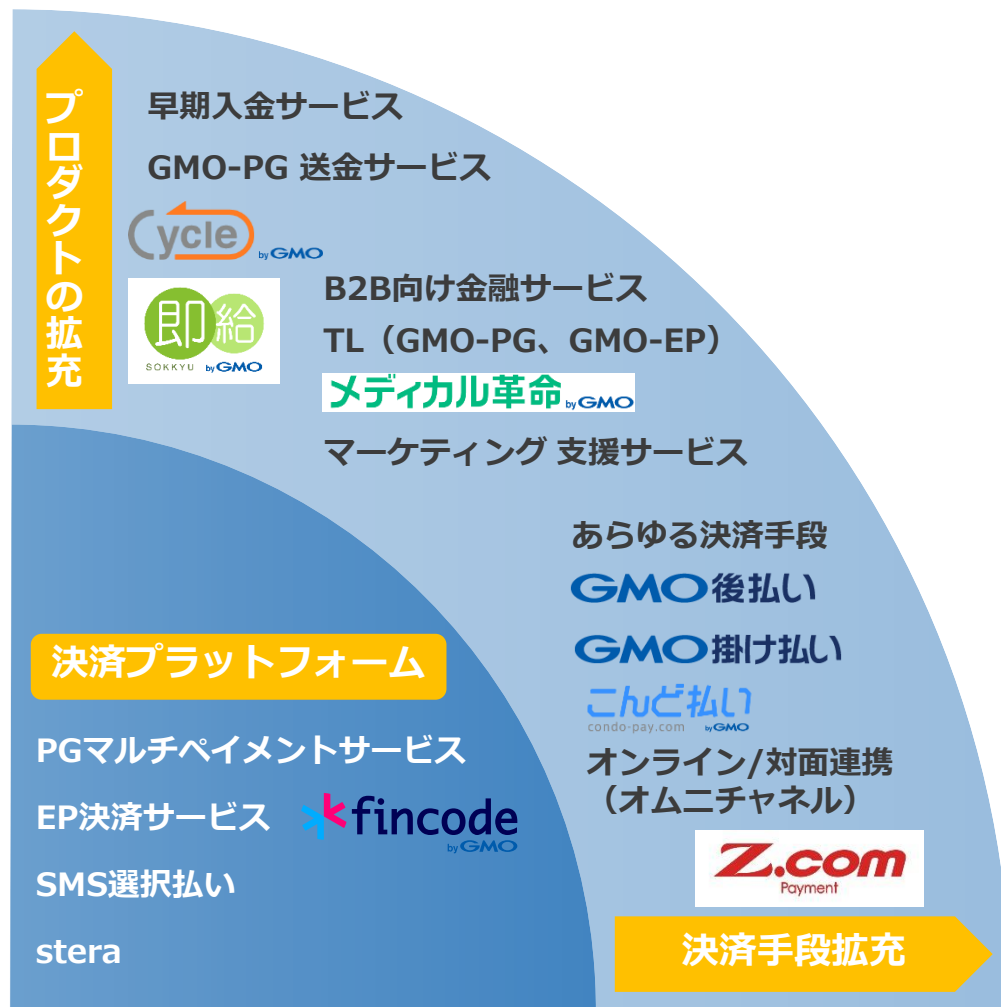
■ 期初予想 ■ 実績



※ 18年9月期期初予想について、国際会計基準（IFRS）の任意適用に伴い新たに設定した業績予想。19年9月期以前について、MK社連結除外前における基準（継続事業＋非継続事業）における営業利益

3.5 顧客当たり収益の拡大とプロダクト拡充

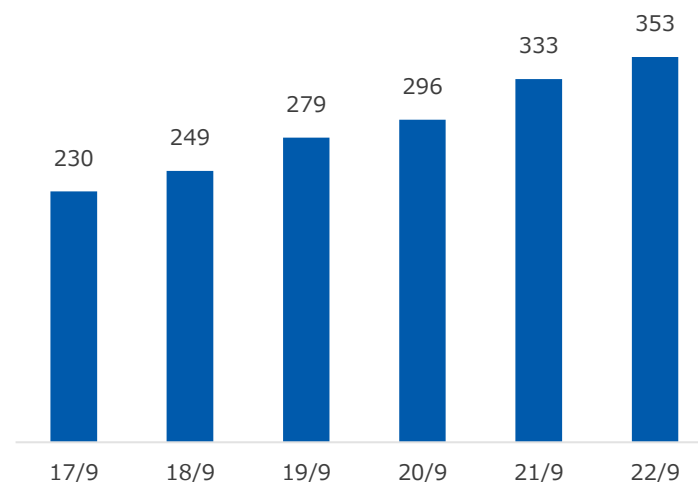
既存顧客に対して多様な付加価値提供/課題解決によりアップセル推進



当社の強み/提供価値

- 拡張性の高い決済プラットフォーム
- あらゆる決済手段への対応
- 付加価値サービスにより、売上/決済拡大に貢献するwin-winモデル
- 消費者、加盟店、決済手段提供者をつなぐマルチサイド・プラットフォーム

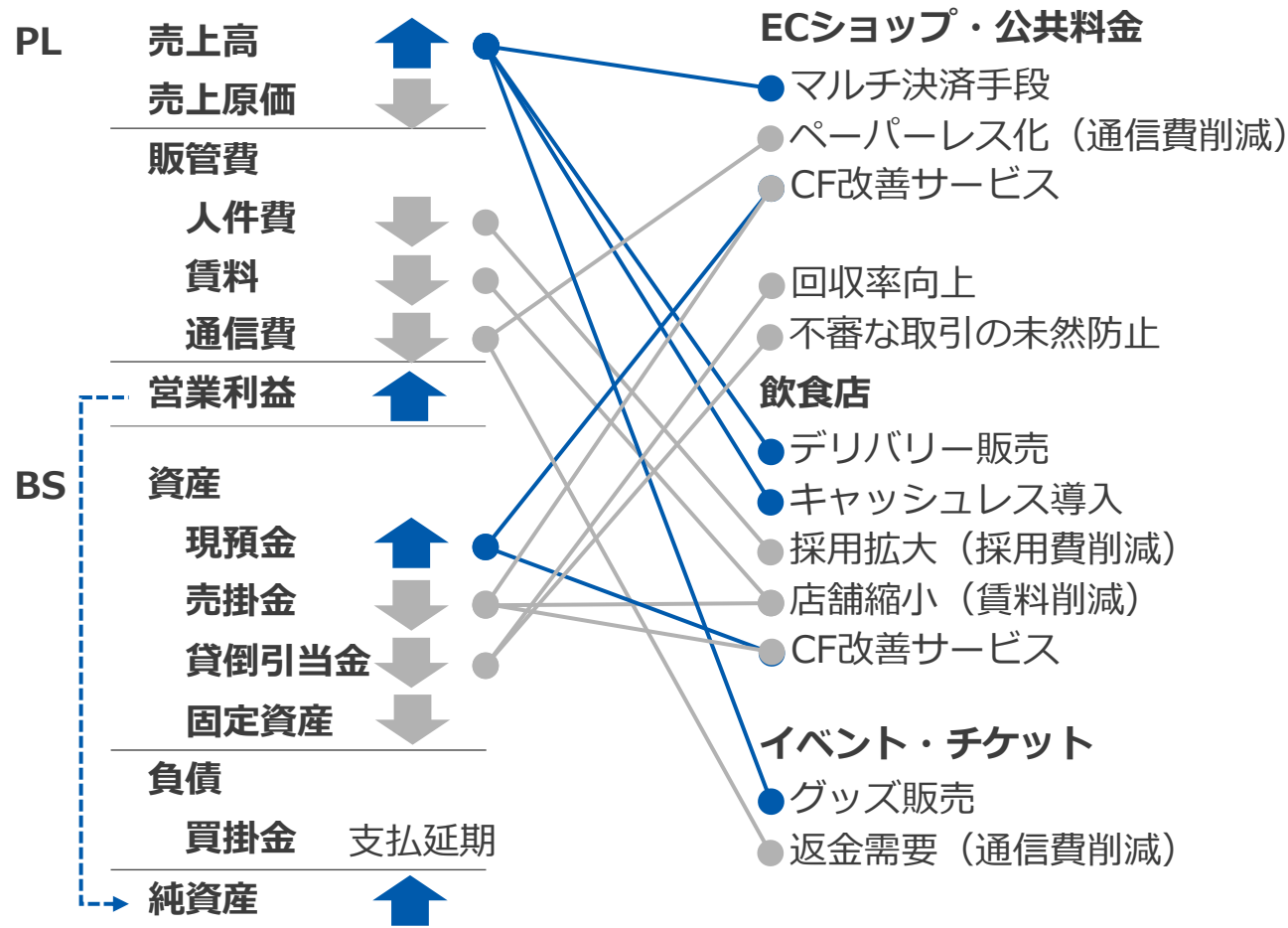
加盟店当たり売上収益（千円）



3.6 顧客のPL・BSを好転させるDX支援サービス

多様な顧客ニーズに応えるサービスラインナップ

■顧客ニーズとPL・BS変化



当社DX支援サービス

PGマルチペイメントサービス
東京電力EP「SMS選択払い」
Cycle byGMO
GMO BtoB早払い
請求書スマホ支払い
不正防止サービス (Sift)

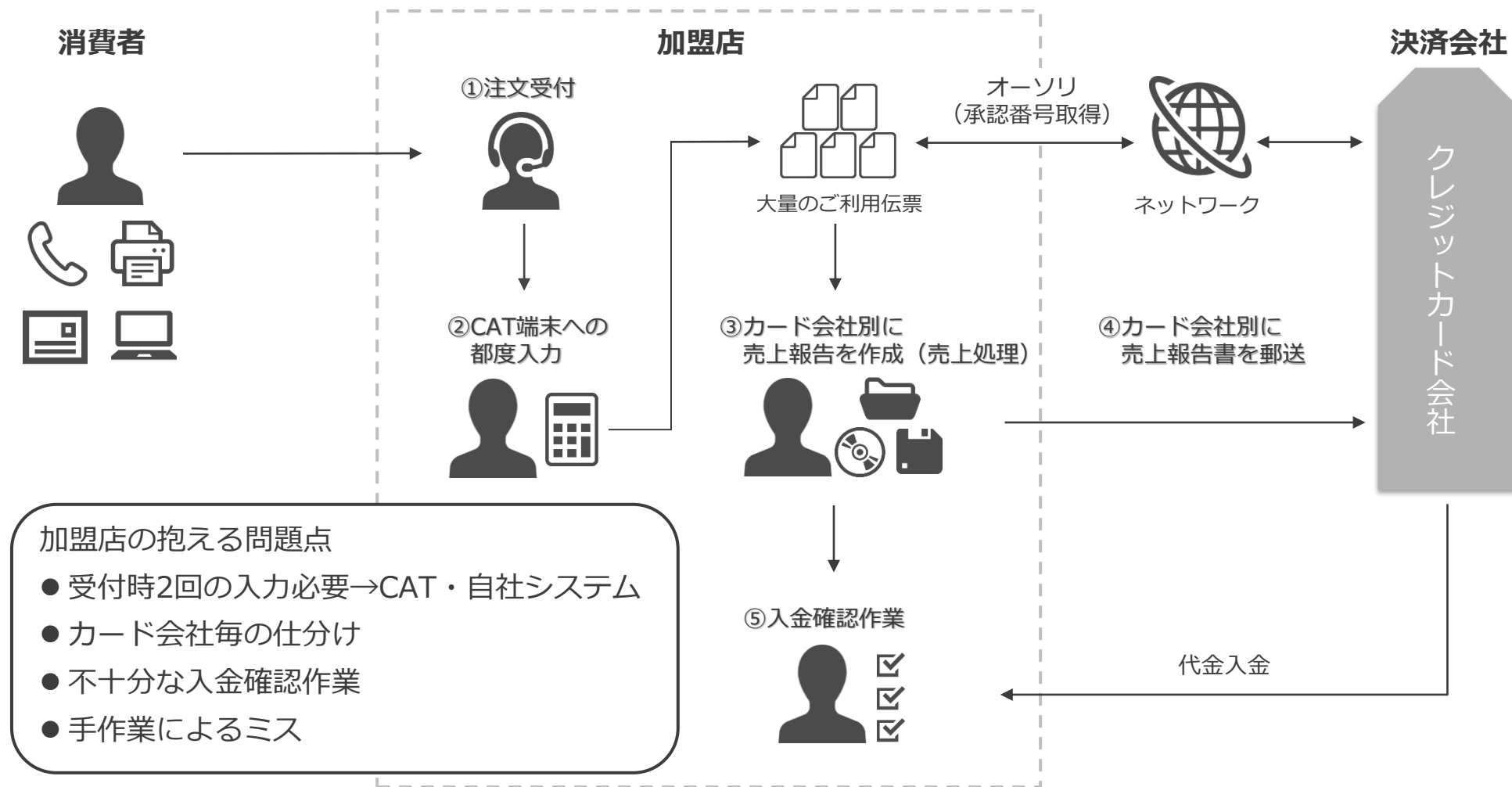
オンライン販売支援
GMO Cashless Platform
即給 byGMO

電子請求書早払い
GMO BtoB売掛保証

オンライン販売支援
送金サービス (返金利用)

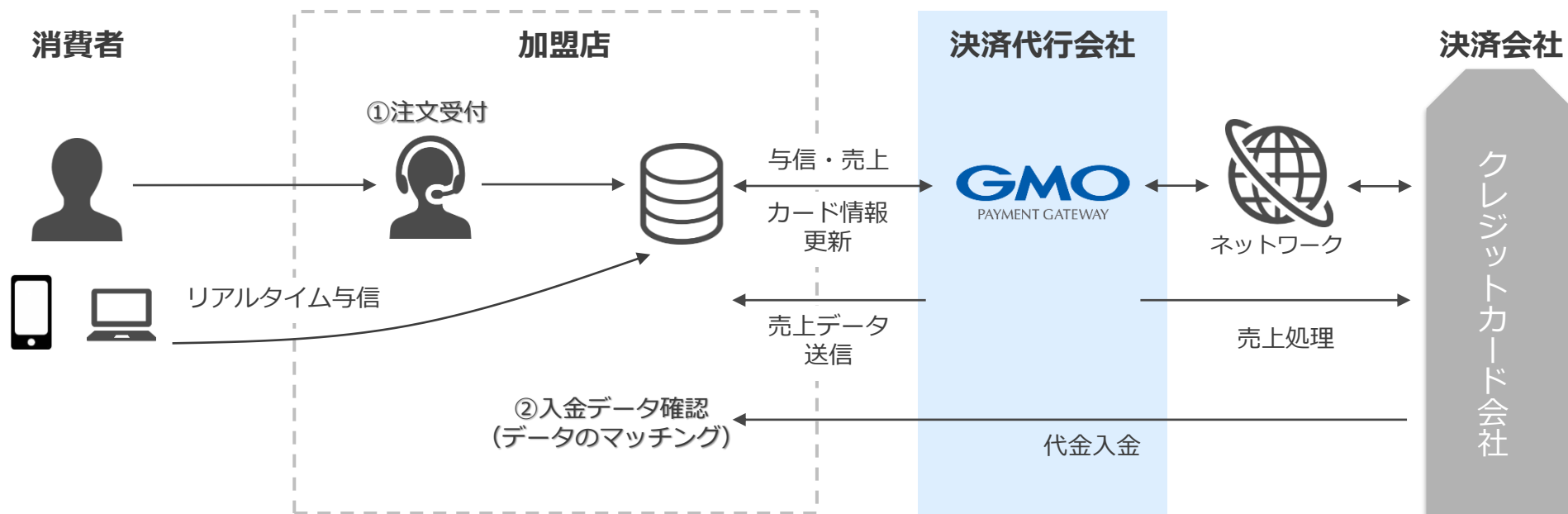
3.7.1 クレジットカード決済代行サービスとは（1）

黎明期のECにおけるクレジットカード決済の課題点



3.7.2 クレジットカード決済代行サービスとは（2）

カード決済業務が効率よく実現出来る決済代行サービス



黎明期、ECのクレジットカード決済は加盟店とカード会社間においてオフライン処理が行われていたため、各社互いに業務負荷が発生していた。そこで問題の解決策として決済代行会社が設立され、仲介に入ることにより、加盟店とカード会社の業務負荷が軽減され現在に至る。